

雲南紀行

上

1
3
98

東 京 圖 書 館				
久	九	五	一	
多	八	架	函	類
冊	号			

026479-001-5

1-98

雲南紀行

依米 拉色 (エミール・ロセール) / 著

和1冊 (上80丁)

M16

ADD-0137



明治十六年十一月十五日出版版權屆
同年十一月廿六日刊行

雲南紀行

陸軍文庫

雲南記行

緒言

紅江ノ探訪者タル入必君ノ雲南總督ノ託ヲ受ケ同
地ニ遊行シテ歸ルキ余モ亦タ萬里ノ長程ヲ經歷シ
異聞珍說ヲ蒐輯シ一書ヲ作ラント欲セリ時正ニ一
千八百六十九年六月ナリ。是時雲南ニ於テハ回々教
徒亂ヲ作シ清國政府ヲ陵蔑セントス。於是雲南ノ總
督巡撫ハ銃砲兵具ヲ歐羅巴ヨリ購求スルノ策ヲ決
シテ以テ其叛徒ヲ戡定セントセリ
雲南省ニ銃砲兵具ヲ輸送スル道ノ最易クシテ最捷
キ者ハ唯紅江ノ一水路ニ在リト雖此路ハ叛徒ノ

東周館 南周館

雲南記行

緒言

紅江

探訪者タル入^{シユビ}必君ノ雲南總督ノ託ヲ受ケ同

地ニ

遊行シテ歸ルキ余モ亦タ萬里ノ長程ヲ經歷シ

異聞

珍說ヲ蒐輯シ一書ヲ作ラント欲セリ時正ニ一

千八百

六十九年六月ナリ。是時雲南ニ於テハ回々教

徒亂

ヲ作シ清國政府ヲ陵蔑セントス。於是雲南ノ總

督巡撫

ハ銃砲兵具ヲ歐羅巴ヨリ購求スルノ策ヲ決

以テ

其叛徒ヲ戡定セントセリ

雲南省ニ銃砲兵具ヲ輸送スル道ノ最易クシテ最捷

キ者ハ唯紅江ノ一水路ニ在リト雖此路ハ叛徒ノ

雲南記行 卷之九

雲南記行 卷之九 出版版權屆

記行

文庫

爲メニ遮斷セラル、ヲ以テ容易ニ由ル可ラス亦タ揚子江ヲ湖リ四川ヲ貫通スル行程ハ特リ能ク通行スヘシト雖モ行程遼遠ニシテ運輸モ亦タ難ク至險ノ障碍ヲ經ルニ非ラサレハ行クヲ能ハス是故ニ尋常ノ航行ヲ以テ揚子江中許多ノ奔湍ヲ渡リ山峽ヲ超エ水陸兩道ノ會接スル地ニ達センニハ七十餘日ヲ費サ、ルヲ得ス是ニ由テ之ヲ察スレハ貨物ノ重ク且大ニシテ馬ニ馱ス可ラサル者ヲ以テ四川ト貴州ノ峻山峻嶺ヲ超エ運輸セント欲スル時ハ幾多ノ障碍ニ苦ミ身心ヲ勞スルヲ幾多ソヤ。

清國官吏ハ素ヨリ斯ノ如キ運輸ヨリ生スル艱苦ヲ知ラサルニ非ラスト雖モ歐洲銃砲ノ秀絶ナル効力

ヲ稱譽スルヲ聞井テ之ヲ得ルニ熱心シ且ツ入必君ノ保證ニ由テ紅江ノ航行容易ニ故ニ復スヘキコトヲ知リ此路ニ由ル時ハ時日ヲ減シ費ヲ省クノ故アルヲ以テ其銃砲兵具ヲ購求シ造兵所ヲ設置スルコトヲ決セリ。而シテ清國戸部官吏モ東京道ノ開クルヨリ一時叛徒ノ爲メニ抑遏セラル、貿易ノ興ルヲ知リ且貿易ノ興ル時ハ從テ國庫歲入モ殷富ノ基ヲ起スコトヲ悟ルカ故ニ其舉ヲ助ケントセリ。

時ニ雲南ニハ賊亂大ニ起リ南方州郡ノ如キハ既ニ賊ノ占據スル所トナリ或ハ大里杜文秀黨ニ畧取セラル一千八百六十九年五月入必君雲南府ニ抵ルノ時該府ハ總テ回々教徒ノ爲メニ攻圍セラレテ道路

通セス特リ東方ノ一道僅ニ行人ノ車馬ヲ通スヘシ
ト雖此時猶砲轟彈雨ノ地タルヲ免レサリシト云フ。
百事危急ノ形勢タルト紅江航行ノ成否ヲ探究スル
ノ困難ナルトヲ察シ勉メテ四川ノ道ヨリ輕便ノ銃
砲兵具ヲ運搬スルコトヲ決シ且造兵所ノ經營ニ須
要ナル人ヲ召集スルコトヲ定メリ。而シテ鑛物掘採
ノ如キハ雲南省ノ過半戡定スルヲ俟テ計畫スル所
アラント期セリ。

余ト與ニ旅裝シテ征行セル入必君ハ一千八百七十
一年二月雲南府ニ着スルノ後南方州郡ヲ經歷シテ
親シク運輸困難ノ狀ヲ視察シ府城ニ歸ルヨリ若干
月ヲ經テ九月ニ至リ終ニ雲南ヲ去ル。而シテ其去ル

ヤ翌年ニ及ヒ委託ノ物品ヲ護送シテ再ヒ來ルニ便
ナル官府ノ文書ヲ領取セリ。

余獨リ留テ專ラ造兵所ヲ創建スルコトニ從事ス然
ルニ一千八百七十二年十二月ニ至テ肝藏病ニ罹リ
治ヲ施スト雖此癒エス終ニ其翌年十一月雲南ヲ去
ツテ上海ニ抵リ醫治ヲ乞フ。是際ニ臨ニ雲南ニ在ル
金屬ヲ探究スル志ヲ發シ之ニ力ヲ竭シテ遂ニ雲南
造兵所ノ爲メニ將來ニ利益アル成果ヲ得タリ。

余雲南地方ニ停留スルヤ大抵各地方ヲ巡視シテ清
國上下文武ノ官吏。回々教徒ノ酋長。獐々白獐々ノ土
酋。苗子ノ土豪及南東種族ト親ク交際シ雲南爭擾中
各地ニ到テ其實況ヲ歷視シ昇平ノ今日ニ於テハ恐

クハ得ルコト能ハサル文書ヲ採緝セリ。之ニ反シテ清人ハ争亂、既ニ撲滅スルヲ見レハ忽チ之ヲ忘却シ却テ架空ノ想念ヲ以テ其事ヲ記録セリ。余雲南ヲ去ル後ハ諸地ノ官辨縉紳ト往復シテ歸後ニ生スル變故ヲ知ルコトヲ得タリ。余ハ東京道ヲ經歷シテ復ヒ來ル事ニ心ヲ決シテ雲南ヲ啓行セシカ故ニ行旅ニ須要ナル行李ノミヲ携帶シ余カ輯集セル書類ノ如キハ之ヲ雲南ニ殘セリ。然ルニ中尉憂爾尼ノ東京ニ征行スルニ次テ騷擾起ルカ故ニ復ヒ雲南ニ到コトノ難キヲ以テ一年ヲ經ルノ後雲南ニ殘ス書ヲ送致セシメタリ。此書ハ全ク余カ管見ヲ以テ編輯スルカ故ニ之ヲ世

ニ公行スルノ意ニ非サリシト雖モ上海ニ歸ルニ及ヒ良友其梓行ヲ促シ且世人ノ極東地方ヲ知ラントスル者或ハ其地ヲ歴視セント欲スル者ノ便トナルヲ思ヒ遂ニ梓行ニ意ヲ決セリ。此書ヲ編輯スル眼目ハ余カ經歷セル雲南地方ヲ勉メテ明白ニ登錄シ内亂十八年間ニ經過セル百般ノ事蹟ヲ詳説シ清國殷富諸省ノ一タルモ我カ歐州人ノ普ク知ラサル雲南ノ較著ナル物産ヲ詳知セシムルニ在リ。而シテ余カ説ク處ノ者ハ余カ見聞スル處ノ者ト各種ノ書籍ヨリ採集スル所ノ者ニシテ土地人民ニ關スル事ハ各地ニ於テ余カ自ラ記載セル日誌ヨリ拔萃シ文學等ノ事ニ就テハ未タ能ク之ヲ詳

ニセサルカ故ニ其明亮ナル者ヲ取テ之ヲ載セ其明
亮ナラサル者ヲ捨テ、之ヲ記スルコトナリ勉メテ
正説ニ原キ敢テ率強附會ノ説ヲ爲サス。
此書ヲ別テ上下二編トシ其每編ヲ分テ數卷ト
ス。其上編卷一乃至卷四ニハ漢口ヨリ雲南府ニ抵リ
更ニ之ヨリ徽江及新興ニ抵ル驛路及其地形等ヲ説
キ卷五ニハ雲南古今ノ沿革ヲ約説シ傍ラ此地時々
爭亂起ルノ故ヲ以テ清國史家ノ遺漏スル條款ヲ補
ヒ且其登録ニ疑アル者ヲ解説シ卷六卷七ニハ雲南
府新興蠻號等ノ驛路ヲ説キ及ヒ其中間ニ周遊セル
事蹟ヲ誌シ並ニ南方州縣ノ風土商況物産ヲ論ス。其
下編卷一ニハ雲南ニ住スル土人ノ種屬ニ就テ見聞

スル者ヲ載セ卷二乃至卷六ニハ柱文秀ノ滅亡ニ至
ル迄逐次ニ盛衰興亡セル回匪叛亂ノ大略ヲ記シ卷
七ニハ雲南土人ノ掘採スル礦物ニ就テ論説シ傍ラ
縣毎ニ類ヲ別テ雲南省中礦物ノ目錄ヲ緝録シ卷八
ニハ雲南貿易諸道ヲ説キ其諸道ニ現ハル、有益ノ
事項ヲ録シ以テ清國政體ノ概略ヲ論明シ勉メテ眞
説ニ據リテ清國人種ノ概略ヲ論述シ回匪ノ叛亂ス
ル所以ト之ニ由テ起ル爭擾等ノ狀ヲ詳ニス。
此書ニ附スル所ノ雲南地圖ハ最モ新製ナル圖ニ據
リテ製シ且ツ清國ノ典籍ト會長商賈ノ寄送セル報
告ニ由テ訂正ス。

一千八百七十九年二月二日法蘭西依米拉色識

于厦門

雲南紀行卷之上

若藤宗則 譯

發漢口抵重慶府

余ハ萬里ノ遊歷ヲ企テ異聞珍說ヲ蒐輯シ公衆ノ一覽ニ供セント欲シテ以テ福州造兵所ヲ啓行セシハ一千八百七十年九月ナリ。而シテ清國ノ州縣ハ歐州人ノ大抵知ラサル處ナルカ故ニ其州縣ヲ經過シテ深ク内地ニ入ラント欲セハ預メ好時機ヲ察シテ發セサルヘカラス。然ルニ余ハ時機ヲ撰フコト宜キヲ得スシテ幾多ノ苦辛ニ遭遇セリ。是レ旅客ノ預メ知ルヘキ處ナリ夫レ清國ノ各地ハ外國人ノ行旅スル

ニハ一トシテ安寧ナルコトナク一ニハ曾テ天津ニ
テ起リタル虐殺緣故ニ由リ人心ノ激昂シ歐州人ヲ
討セント欲シテ群集セル兵隊ノ騷擾スル等ニ由テ
温良無異ナル旅客ヲ困シメ。一ニハ官府ノ文書有リ
ト雖雲南官吏ヲシテ余輩ニ信ヲ措シムルヲ能ハサ
ルヲ以テ艱苦ヲ嘗メ萬一ヲ僥倖シテ後僅ニ雲南ニ
達スルコトヲ得。一ニハ清國ノ官吏弊風ニ浸潤シ自
巳ノ開化ヲ誇張シテ他邦ノ民人ヲ輕侮シ且京畿ヲ
距ルコト遼遠ナルヲ以テ左右人ノ卑屈ニ慣レ已ニ
近ク者ヲ屈服セシメントスルノ風アルカ故ニ余輩
平心以テ之ヲ忍ヒ枉テ其官吏ノ意ニ從ハスレハ有
ルヘカラス。余始メヨリ之ヲ詳ニセシナラハ必ス此

行旅ニ思ヲ絶ツ可キニ是時行旅ノ方畧定リテ既ニ
久ク其準備整ヒ意志既ニ決シ加フルニ余輩ト伴行
スヘキ士モ亦已ニ來ルヲ以テ騎虎ノ勢已ムヲ得
サリシナリ
余輩ハ蒙昧獷悍ナル民人ノ間ヲ周遊シ得ンカ爲メ
全ク清國民間ノ衣服ヲ被リ形ヲ清人ニ擬シテ歐州
人ノ姿狀ヲ隱蔽セリ。
余輩ハ漢口ヲ以テ行旅ノ始メトス。是時入必君自ヲ
啓行ノ準備ニ力ヲ盡スリ故ニ此地ニ停留スルコト
兩日ヲ出テスシテ江ヲ溯ルコトヲ得タリ。
清船三艘ヲ艤シ十月某ノ夜月ノ東山ニ舛ルヲ俟テ
漢陽ヨリ開船ス。然ヲサレハ城壁ノ下ニ羅列セル木

黃鶴樓在湖
北省垣漢陽
門城上建樓
三層顏其匾
曰黃鶴樓對
江即漢陽府
東門外之鵝
洲也

筏ニ撞觸スルノ患アリ此夜月色皎潔ニシテ微風徐
ニ起リ。布帆爲メニ張リ篙手手ヲ懷ニシテ激湍ヲ溯
リ。衆星ハ爛トシテ恰モ金剛石ニ異ナラス。月光江面
ヲ照シ。怒浪奔漲シ。黃鶴樓烟霧ノ間ニ髣髴タルモ舟
行矢ノ如クニシテ忽々之ヲ失ヒ。警夜ノ兵竹杖ノ聲
ハ耳邊ニ響キテ人家アルヲ知リ。其音寂寥ヲ破リ來
レリ。
翌日ハ秋氣快爽。旭日曠々トシテ升リ天色一點ノ雲
ナシ小軍山金口二村ノ間ヲ航走シ金口ニ小憩シテ
後レタル船ヲ俟テ且余輩ヲ送ル親友ト訣別ス。既ニ
シテ曉風ノ便ヲ得ルカ故ニ速ニ解纜ス。
漢口ヲ發シテ四川ニ抵ルニ數道アリ旅客ノ宜ク撰

ムヘキ處ナリ。就中最モ近クシテ清國官吏及商賈ノ
常ニ往來スル道ハ漢口ヨリ溯ルコト三十里里ハ清里ナリ
以下之ニ倣ヘ
ニ至ル處ヨリ湖北南方ノ地ニ入り諸湖ヲ通シテ沙
市ニ抵ル通路ナリ此道ニ由レハ漢口ヲ發シ八日ヲ
出テスシテ沙市ニ抵ルコトヲ得ル。又楊子江ヲ溯リ
航スル時天氣靜和ニシテ風無キ時ハ十二三日ノ間
ニ宜昌ニ直航スルヲ得ルト雖此江濱ハ北風吹來
リ冬時ニ於テ
殊ニ甚シ船客其江流ヲ迂曲。廻轉スル時ニ於テ其風
ノ爲メニ苦ムコトアリ故ニ時々避風場ヲ覓メ艱苦
ヲ忍ヒテ風濤ノ収マルヲ俟ツニ非サレハ航進スル
コトヲ得ス。此ノ如キ不時ノ災厄アルモ重慶府ト漢
口ノ間ヲ往復通商スル四川ノ大船ハ大概此水路ヲ

以テ常路トセリ。又岳州府ニ近キ處ヨリ洞庭湖ニ入
 リ湖南ノ一部ヲ通シテ復ヒ楊子江ニ出ル水路アリ。
 此水路ハ湖北ノ通路ニ比スレハ微シク長ク江流航
 路ニ較フレハ稍短カク處々ニ稅關ヲ設ケテ商貨ノ
 稅ヲ徵取スルヲ以テ商賈ノ四川ニ入ル者此路ニ由
 ルコト希ナリ余輩ノ船内ニ搭載スル軍器ハ清國政
 府ニ屬スル者ナルカ故ニ徵稅セラル、ノ患ナク余
 ノ旅行モ官用ナレハ路ノ稍長遠ナルヲ厭ハサルヲ
 以テ路ヲ洞庭湖ニ取り湖南ノ地ヲ歷視スルコトニ
 決シ金口ヲ出テ航進スルコト八日ニシテ岳州府ニ
 抵レリ

岳州府ハ洞庭湖口ニ在リ其城ハ圓形ニシテ之ニ疊

牆ヲ繞ラス其疊牆ハ丘腰ニ沿ヒ蜿蜒シテ數里ノ外
 ヨリ望見ス可シ。城内ノ結構頗ル堅牢ナリト雖モ不
 潔ニシテ臭氣鼻ヲ衝キ觀モ亦厭フヘシ。通商區域内
 ニハ倉庫簇々トシテ歐洲ノ物品ヲ藏メ街衢ハ狹窄
 ナリト雖モ商賈ハ其店鋪ニ歐洲ノ各品ヲ裝列シ或
 ハ彩色鮮明ナル絹布ヲ陳列シテ行客ノ愛顧ヲ得ン
 コトヲ求メ亦タ漢口ト直ニ往復シテ互ニ通商ス。
 岳州ノ居民ハ湖南各地ノ居民ノ如ク西方諸蠻ト深
 ク怨ヲ構ヘ。天性驕傲武技ヲ好ミ大ニ他ノ人民ニ異
 ナル處アリ曾テ大平賊亂ノ時湖南ハ壯丁ヲ出スコ
 ト最モ多ク尙ホ方今ニ至リテモ衛戍ノ役ニ服スル
 士卒ハ湖南ヨリ出ル者多キニ居ルト云フ爾來其士

卒營中ニ坐臥シ營中ノ習慣ニ感染スルヲ以テ解隊ノ後モ多分ハ田野ノ作業ヲ嫌厭シ徒ニ安逸懶惰ヲ好ニ固有ノ良心ヲ放棄シテ終ニ惡虐無賴ノ群ニ入り諸城ヲ抄掠シテ生計トスルニ至ル。是レ諸人ノ知ル處ナリ。

湖南ハ氣候中和ニシテ灌溉ニ資ル水流ニ富ニ。金鑛多クシテ土地モ亦タ沃饒ナリ實ニ清國富饒省中ノ一ト稱スヘシ。礦物ノ如キハ現今ニ至ル迄掘採スル地狭小ナリシト雖モ多量ノ石炭生鏝ヲ出シ漢口ノ商賈之ニ由テ富ヲ爲スト云フ。

余輩ノ岳州府ニ着スルヤ此地ノ稅關官吏我船橋ニ雲南牧伯號旗ノ翩翩スルヲ望見シ使事ノ如何ヲ知

ラント欲シ慌忽トシテ船舷ニ來レリ。而シテ主客寒暄ノ禮畢リ茶ヲ喫シテ後其官吏禮ヲ正シテ曰ク吾輩ノ職トスル所ハ假令官辨タリト雖モ商賈ノ如ク處分セサルヲ得ス況ヤ兵器ノ運輸ハ固リ國家ノ禁スル所タレハ監視最嚴ナラサルヲ得スト終ニ余輩ノ路引ヲ檢セント請フ。然ルニ其官吏ノ心ハ賄賂ヲ貪ルニ在ルカ故ニ余輩ノ路引及雲南牧伯ノ公文ヲ覽ルヲ以テ足レリトセス種々事ヲ設ケテ余輩ヲ妨阻ス。余輩ハ發程ニ急ナルヲ以テ若干塊ノ銀ヲ贈リ之ヲ以テ漸ク其官吏ノ承諾ヲ買フコトヲ得タリ。是レ余輩ノ障碍ニ遇フ始ナリ

余輩ハ官吏ノ承諾ヲ得。船ノ艤裝モ亦タ終ルヲ以テ

湖水ヲ航通セント欲シ岳州府ヲ開帆ス。此時湖水ノ
景色頗ル快爽ニシテ無數ノ輕舟縱横ニ航駛シ或ハ
岸邊ニ各國ノ船舶集リテ各種ノ旗ヲ翻セリ
時ニ曉風吹キ來リ直ニ岸上ノ村落ヲ航過セシカ。忽
々天際ニ一大黒雲ノ出ルヲ見ル篙手等之ヲ視テ颯
風ノ起ルヲ懼レ前ニ進ミシ輕舟ノ爲ス所ニ倣ヒ君
山島ノ後方ニ投錨シ碇泊スルヲ二日以テ風勢ノ衰
フルヲ俟リ。此湖袤ハ四十里ニシテ廣百二十里ニ過
キスト雖風ノ發スレハ航行甚タ危シ故ニ此湖ヲ
航スル篙手ハ天氣變更ノ徵アル時ハ妄リニ發セス
必ス天色ヲ卜定スル後解纜スルヲトス。其天色占候
ノ如キハ實ニ此篙手ノ一大長枝ナリト云フヘシ

風雲ノ變有リシカ爲ニ却テ君山島ヲ巡覽スルコト
ヲ得タリ。此島ハ其景色幽邃ニシテ愛スヘク樹木蒼
鬱トシテ日光ヲ遮リ。彼此各處ニ散位スル殿宇ハ行
客ノ勞ヲ休ムルノ處トナリ。兩阜ノ側傍ニハ各種ノ
茶ヲ播種シテ清國顯官ノ飲料ヲ出シ。又々他處ニハ
垣壁ノ圍障ヲ設ケ僧官之ヲ守テ其中ニ清帝供御ノ
佳茶ヲ培養シ。島上ノ峯頂ニハ色旗高ク翻リ。其周圍
ニ樹木花艸茂生シテ其中ニ佛像廟祠並列シ。又々瀑
布アリテ懸流ス。此天然ノ佳景ニ尙ホ人工ヲ以テ景
色ヲ添ヘ以テ其景緻愈々雅趣ヲ増セリ。
余輩ト同シク湖上ノ狂瀾怒濤ヲ避ケントシテ停泊
スル輕船五十艘アリ。風雲ノ収マルニ乘シ各船競テ

解纜ス。余輩ノ船モ亦夕開帆セリ。

爾後湖上全ク靜穩トナリ。數多ノ綠島ニ沿フテ航進シ。數多ノ砂洲ヲ迂廻轉行シテ太平運河ニ通スル渠ニ入ル。其渠ノ兩岸ハ低濕。蘆荻茸々トシテ茂生シ。地形漸次ニ高燥トナルニ從ヒ蘆荻少ウシテ遂ニ耕耘ノ地トナル。

渠ヲ航行スルコト若干里ニシテ始メテ一村落ニ達ス。此村落ハ湖北省内ニ屬シテ岳州府ノ如ク税關ヲ設ケ。之ヲ過クル貨物ニ税ヲ徵取スルカ故ニ余輩ノ船此處ヲ過クル時税關吏余船ニ來リ税ヲ徵取セントセリ。是ヲ以テ余輩ハ官府ノ文書ヲ出シ示メシテ此處ヲ通過シ。復タ其他ノ税關ノアル處ニ於テモ前

ノ如ク文書ニ由テ通過シ。逆風ヲ凌キ航スルコト若干日ニシテ大平口ニ着シ。復ヒ楊子江ニ入りテ河口ニ碇泊ス。

翌日ハ日將ニ出テントスルキ東北風起リ。余船ニ逆フテ吹クカ故ニ船ノ進ムコト遅ク。午正ニ及ヒ漸ク江口村ニ達シ。五時ノ頃董市ニ抵リ。是ヨリ更ニ航進シテ午後八時穆家灣ニ至ル。

余輩ト共ニ航進スル船舶ハ發砲ノ音響ヲ聽キ皆ナ駭然タリ。蓋シ是レ税關吏ノ朝夕ニ發スル者ニシテ夜間ハ航進ヲ止メ。或ハ復ヒ航進スルヲ許シ。若クハ通過ノ税金ヲ徵取スルコトヲ諸船ニ報スル爲メニスルナリ。是ヨリ一二分時ヲ出スシテ已ニ此村落

穆家灣

ヲ遙ニ後方ニ見ルニ至リ舟手ハ互ニ其隣船ヲ超越
セント欲シ競フテ航進セリ。午正ノ頃余船ハ一桅ヲ
折レリ故ニ船ヲ駐メ其桅ヲ鍛ト共ニ隣村ノ鍛工ニ
送テ修理セシム其間ニ乗シ余輩ハ上陸シテ近地ヲ
遊獵スルニ江岸ノ丘陵ニハ荆棘蕪草茸ヤトシテ茂
生シ。其中ニ野鷄野兔アツテ翔舞シ。丘間ノ地ハ滿地
ノ橙樹。果ヲ結テ黃熟シ採喫スルニ勝ヘタリ。土人ハ
其數顆ヲ余輩ニ惠ムモ一物ヲ受クルヲ欲セス。其果
ヲ見ルニ外皮頗ル厚クシテ其瓤肉苦味ヲ帶フ。既ニ
シテ桅檣修理ノ成ルヲ告クルヲ以ツテ其夜船ニ乘
シ拂曉ニ至テ解纜シ八時半ニ及ンテ宜都縣口ノ兩
三家ヲ見ル。蓋シ初メ桅檣ヲ折ルカ如キ災厄ナカリ

セハ前日此ノ處ニ至シナラン。是ヨリ速ニ宜昌ニ到
達セントスルヲ以テ暫クモ船ヲ駐メス進航セリ。
江ハ常ニ廣濶ニシテ其水底ハ一面ニ火石砂ナリ。地
或ハ曳船ニ便ナラスシテ兩舟ノ拉繩ヲ接着セサル
ヲ得サルヲアリ。又タ舟ヲ前後一線ニ連列シテ航進
スルヲ要スルヨリ時ヲ費スヲ甚シク。午後五時半ニ
及ンテ僅ニ右廬背ニ抵ルヲ得テ碇舶セリ
翌日ハ天色晴蒼。微風亦タ吹キ來テ冷涼ヲ覺ヘ。八時
ノ頃江水兩丘間ヲ流レテ狹窄スル處ヲ過キ遠望ス
レハ七層樓ノ聳ヘ立ツヲ見ル之ヲ以テ宜昌ノ近ツ
クヲ知ルナリ午後二時半宜昌ニ着ス。啓行ノ日ヨリ
今日ニ至ルマテ二十二日ナリ。通常ハ十五日ニシテ

足ルト云フ。

宜昌ハ清里ヲ以テ測ルニ漢口ヲ距ルコト千百五十里
即佛里三百五十里ニ在ルニ由テ施政貿易ノ要地ナリ蓋シ江ヲ

溯ル内外ノ貨物ハ大抵此地ニ於テ四川ノ船此船ハ大江ヲ航スルノ

用ニ構造スル者ニシテ狂瀾怒濤ヲ起シ來ル急流ヲ航過スルモ危険ナシト云フニ轉載シ。又四川ヨリ物品ヲ輸

送シテ水路漢口ニ下ラント欲スル時モ此處ニ於テ

船ヲ易エ。或ハ湖南山東ノ二省ヲ經歷シテ陸路ヨリ

物品ヲ輸送スル時モ此地ヨリ上陸スレハナリ。

宜昌ノ地モ亦タ他ノ江上各地ノ如ク人口頗ル繁盛

ニシテ村落蒼布セシト雖モ一千八百六十八年六十

九年同治七年兩年ノ洪水ニ由テ其一部壞頽ス。此地ニ於

テ貿易事務ヲ管理スル官吏及海峽ノ居ハ概シテ城

市外ニ在リ。此海客ノ數ハ城市居民ノ半ヲ過クト云フ

此地江流ノ水勢ハ一分時間ニ四節一節ハ水勢ヲ測ル繩ノ分節ニシテ我八間ニ當ル乃

至七節ノ速力ヲ以テ舟舶ヲ送ルカ故ニ重慶ヨリ下

ル諸船ハ舟夫多カラスシテ足ルト雖モ之ヲ溯ル者

ニ在リテハ之ヲ阻碍スル者多キカ故ニ數多ノ舟夫

ヲ必要トス。然レモ此地ノ慣習ニ由リ流ヲ下ル諸船

モ亦舟夫ヲ用ウルコト多クシテ以テ其補缺ニ備フ。而

シテ此ノ如ク補缺ノ用ニ備フル舟夫流ヲ下ル時ニ

於テハ之ニ備錢ヲ與ヘス唯食物ヲ給スルノミ。其舟

夫宜昌ニ抵レハ皆ナ上陸シテ其地ノ集合所ニ駐リ。

若クハ傭夫督丁ノ家ニ留リ傭役ニ就クノ時機ヲ俟

ツ。大商船ハ四十名以上ノ舟夫ヲ用井。旅客船ハ十二名乃至十五名ヲ用ウルヲ常トス。蓋シ此舟夫等流ヲ下ルノ時備錢ヲ受ケスト雖其溯テ歸航スル時ニ方リ得ル所ノ利大ナルヲ以テ其損ヲ償フト云フ。宜昌港ハ余輩ノ經歷スル時頗ル繁盛熱鬧ニシテ各省ノ舟船輻輳セリ。就中販賣ノ物品ヲ搭載スル船舶ハ其桅上ニ號旗ノ類ナル各種ノ招牌ヲ掲ケ旅人ノ便ニ供スル快子船ハ桅檣ヲ立スシテ江岸ニ整泊ス。一望スレハ宛モ廢船ノ狀ニ似タリ。此船ハ樅板ヲ連接シテ造リ其法甚粗ナルカ故ニ港外ニ出テ波濤ヲ冒ス時ハ未タ大船ニ到ラスシテ屈撓スルノ患アリ。居民ハ其數多ク異種相混シテ密居シ。就中四川産ノ

人五分ノ一ニ居ル。宜昌郭外ノ人ハ其省中狡黠貪利ノ諸人ト交ルコト頗ル親密ナルヲ以テ其風ニ化セラレ唯利ヲノミ是レ勉メ。動モスレハ爭鬪シ其爲ス所恰モ周流無賴ノ民ニ異ナラス。苟モ利ノ在ル所百方之ヲ得ント欲シ廉恥ノ風地ヲ拂テ虛シ。余輩ハ洞庭湖中ニ淹留スルニ由テ急速ニ解纜スルヲ要スルヨリ兩日間ニ船ヲ易ヘ。須要ノ準備ヲ爲シ。尚ホ船客ニ缺クル處アリト雖其舟夫等解纜ノ式ヲ行ヒ其式タル始メハ難雜ヲ宰レ且ツ其血ノ船軸ニ滴リタル者ヲ取リ一二翅ヲ染メ以テ神ヲ祭リ之ヲ食フ起錨ノ準備ヲ爲セリ。

十一月十一日 曉天ヲ以テ解纜ノ期ト定ムト雖其舟夫等一人モ解纜セントスル者ナシ。是ニ於テ船長

ヲ顧ミテ此ノ如ク約ニ背ク所以ヲ問フ船長ノ答フ
 ル處詳ナラス加之舟行ニ須要ナル物品ヲ求ムルニ
 託シ尙ホ前金ヲ領取セント請フ。余輩ハ固ヨリ約條
 上ニテ彼輩ニ與フヘキ金額ノ過半ヲ已ニ交付スル
 ナリテ其請求ヲ拒絕シ且ツ衙門ニ訴フヘキヲ以テ
 之ヲ脅嚇セリ。船長此脅嚇ニ恐レ須臾ニシテ舟夫皆
 ナ操舟ノ列ニ就キ解纜スルコトヲ得タリ。
 宜昌ヨリ大約十五里ヲ距ル處ヨリ江道狹窄シテ高
 山ノ間ヲ流レ上流ニ溯ルニ從ヒ航進愈々艱難トナ
 リ。處々岩石江心ニ横ハリ激流ノ巴廻ヲ爲シテ航行
 頗ル難シ。然ルニ舟夫ハ幼ヨリ挽船ノ術ニ熟スルヲ
 以テ岩ヨリ岩ニ移ルコト恰モ獼猴ノ如ク或ハ寒ヲ

冒シテ水中ニ投シ毫モ恐怖ノ色ナシ。
 宜昌ト重慶府ノ間ヲ往來通商スル船ハ其前方ニ一
 大橈ヲ備ヘ。水流急ニ廻轉スル地ニ於テ其舵力ノ及
 ハサル時之ヲ助ケテ船ヲ廻轉セシムルノ用トス。
 此地ニ至レハ啓行ノ地口漢ニ比スルニ江水高キト大
 約一尺餘。舟夫余輩ニ言テ曰ク水ノ前日ヨリ高キト
 二尺ナリト。午後十時一小灣ニ投錨ス。
 十二日 此日ハ天氣晴朗ナリト雖モ航進ノ艱難ハ
 前日ト異ナルコトナシ。是レ巖石江心ニ横ハリテ水
 面ニ突出シ。從テ航路曲折迂廻セサルヲ得スシテ水
 勢モ昨日ニ比スルニ甚タ激烈ナレハナリ。三時ニ及
 ヒ舵折シテ用ヲ爲サノルカ故ニ停泊シテ之ヲ修理

ス。此日航行スルコト六十里ナリ。
十三日 午前六時ニ起錨ス。此日モ航行頗ル困難ナルカ故ニ遞運船ヲ雇テ余輩カ船ヲ曳カシメタリ。
午前余輩ノ航過スル際五六艘ノ船。半ハ江水ニ没シ其舟人ハ江岸ニ開張スル布幕ノ中ニ休憩シ貨物過其半ハ木ヲ地上ニ展布シ日光ニ曝シテ之ヲ乾カシ。其間綿ナリニ舟工ヲシテ船ノ損處ヲ修繕セシムルヲ見タリ。
四時ノ頃極メテ狹隘ナル峽間ニ入ル。其峽長六里。幅四十四間ニ過キス。江濱ハ險峻突兀トシテ江面ニ垂レ。行人ヲ脅シテ呑マントスルノ狀有リ。水流ハ此地ニ至リ稍ヤ緩ニシテ櫂ヲ操スルニ易ク。六時ノ頃停泊ス氣候清涼ナリ。

十四日 余カ停泊スル處ヨリ上ルコト七八里ノ上流ニ清灘ノ急湍アルカ故ニ余ニ繼航スル船ノ未タ到ラサル前ニ急湍ヲ超過セント欲シテ黎明ニ解纜セリ而シテ其處ニ到レハ大船十艘在テ之ヲ超過スル備ヲ爲セリ。若シ早發セサリシナラハ恐ラクハ超過ノ期後ル、一更ニ甚シカリシナラン。抑之ヲ超過センニハ各船皆四十名ノ曳夫ヲ雇ヒ。其曳夫一名ニ五文乃至七文ノ備錢ヲ與ヘ更ニ若干文ヲ與ヘテ其勞ヲ賞セリ。
午後一時ニ暫ク船ヲ停メ船中ノ諸人喫飯ス。江水常ニ兩山ノ間ヲ貫流シ。山上或ハ樹木ノ繁生スルアリ或ハ玉蜀黍ヲ培栽セルアリテ且細流ノ注入スル者

甚多ク其風景幽邃人ナシテ凄然タラシム
三時ニ至リ彈藥及兵器ヲ搭載スル船。巖石ニ衝突シ
水其船内ニ滲入ス。是ニ於テ船手等力ヲ盡スト雖
全ク其滲口ヲ塞クコト能ハス故ニ木綿及帆布ヲ以
テ假リニ其滲口ヲ塞キ歸州ニ近ツキ江岸ニ上リ舟
工ヲ雇フテ之ヲ修繕セシメタリ。蓋シ此地ハ歸州ニ
接近スル處ナルヲ以テ舟工ヲ雇フコト容易ナレハ
ナリ。此日ニ於テモ昨日ノ如ク船ヲ陸地ニ上ケテ其
損處ヲ補フヲ見ル。

十五日 昨日ノ修繕全ク卒ルト雖モ船梢ハ船貨ノ
過重ナルニ託シ其備錢ヲ増サントテ乞ヒ船ヲ止メ
テ發セス凡テ四川ノ船梢ハ大抵發スルニ臨ミ金ヲ

貪ルヲ常トシ百方之カ口實ヲ求メ些少ノ艱難ヲ造
爲シテ大事ト爲スノ惡風有リ。是以テ之カ説諭ニ力
ヲ盡シ始テ解纜セリ。既ニシテ歸州ニ着セシカハ入
必君ノ管事王氏其地ノ官吏ニ到リ護送物品ハ雲南
府ノ官物ナルカ故ニ二艘ノ貨船ニモツテヲ借ランコトヲ乞
ヘリ。官吏固リ余カ狀ヲ曉知スルヲ以テ唯々トシテ
求ニ應シ。依テ以テ躊躇スルコトナク船ヲ易ヘテ直
ニ解纜スルコトヲ得タリ。

歸州ハ通商ノ要地ニ非ラス。其城ハ丘陵ノ側傍ニ構
築シ。外景頗ル醜惡ニシテ其前方數里ノ間ニハ砌石
ヲ堆シ江水盤流シテ其城ニ近ツクコト難ク。善ク意
ヲ用ヒ舟楫ヲ操ルニ非サレハ抵ルコトヲ得ス。城外

四圍ノ地ハ丘谷アツテ平垣ナラス。沿江ノ民ハ工術ニ疎ク耕耘ヲ專トス。三時半ニ及ヒ復タ激流奔湍ニ遭フヲ以テ各船ニ農民三十名ヲ雇ヒ之ニ船ヲ曳シメ以テ之ヲ超過スルコトヲ得タリ。

午後四時ノ頃一大船ノ江底ニ膠着シテ進マサルヲ見ル。此船ハ漢口ヲ發スルヲ余輩ヨリ早キ月餘雲南官吏ノ雇フ處ノ者ニシテ其損破著シク之ヲ修繕セシニハ時日久キニ彌ルヲ以テ其官吏更ニ他船ヲ雇フテ夔州府ニ至リ夫ヨリ重慶府ニ至レリト云フ。余輩ハ午後五時ニ及テ停泊ス。

十六日 朝天色晴朗氣候清涼ニシテ寒カラス午前六時ニ開帆シ須臾ニシテ劉德淵ヲ過ク。此地ハ昂低頗ル著シト雖ヒ激浪蕩石ヲ見ス然ヒ尙ホ土民ノ力ヲ藉リテ航進スルハ此地ノ慣習ニ從フナリ。江ノ景色ハ毫モ變異アルコトナク山皆險峻。土地廣カラスト雖ヒ耕耘普ク至レリ。

船ノ航進スルニ從ヒ水上兩岸ノ諸山相近ツキテ江道ヲ狹窄シ。且前日ノ水漲ニ由テ水流急激トナル。午後一時巴東縣ニ着ス。巴東縣ハ過半漲流ノ爲メニ破壞ス。蓋シ此地ハ連山ノ右側ニ在テ高燥ノ地位ヲ占ムルト雖ヒ江幅甚タ狹小ニシテ僅ニ五十間ヲ出サルヲ以テ水増漲スレハ水面甚タ增高シ泛濫スルヲ以テナリ。

此處ニテ湖北ノ宜昌鎮臺ニ遭フ。此鎮臺ハ四川ノ同

僚ト商議スル爲メ其砲船隊ヲ引率シテ此處ニ來リ
之ヲ待ツ者ナリ。此地ノ掟則ニ從ヒ其鎮臺ノ滯在中
ハ諸船ノ通行ヲ停止ス。故ニ四川ヨリ來ル者ハ下流
ニ下ルコトヲ得ス湖北ヨリ來ル者ハ上流ニ溯ルコ
トヲ得ス。其鎮臺ヲ見ルニ腰ニハ旋發銃ヲ佩ヒ敖然
トシテ其兵器ヲ以テ得意トスルノ色アルト自餘清
人ニ異ナラス。此人ハ五千ノ藥包ヲ貯ヘテ衙門ニ藏
セシト雖其衙門洪水ノ爲メニ流失セシヲ以テ過
半ハ之ヲ失ヘリト余ニ示スニ數彈ノ全ク毀損シテ
用ニ勝ヘサル者ヲ以テセリ。是故ニ入必君其歎心ヲ
買ハント欲シテ鎮臺ニ百個ノ藥包ヲ贈リ副官ニ贈
リシ者亦之ニ稱フ

此地ハ沃土ニ非ラスト雖^ハ甘藍^ハ及馬鈴薯^ヲ生スル
多キヲ以テ清國各地ニ頗ル名ヲ得シト云フ。余久ク
此類ノ菜蔬ニ窮乏セシヲ以テ僕ニ命シ農家ニ至リ
購求セシム。僕乃チ若干文ヲ投シテ良品ヲ携ヘ歸リ
余ヲシテ歐州產ノ者ヲ追想セシメタリ。

巴東縣ハ湖北極端ノ地ニシテ之ヨリ直チニ四川省
ニ入ル。其地ノ四邊各所ニハ石炭ヲ掘採スト雖^ハ劣
品ニシテ糶出スル所甚タ廣カラス山間地ニ耕耘ス
ル者ハ唯其地居民ノ日用ニ足ルノミニシテ之ヲ他
ニ鬻クノ多キニ至ラス。

歸州ノ官吏ト約スル條件ト其他ノ慣習ニ據ル時ハ
歸州ニ於テ雇フタル船ハ必ス其地ニ歸ラサルヲ得

サルナリ然レ余輩ハ其船ヲ以テ夔州府ニ至ラント、
欲シ價ヲ倍シテ之ヲ雇フト雖レ船梢遂ニ肯セスシ
テ歸航セリ故ニ貨物ヲ載スル船ナシ又他ノ一船ノ
船梢モ上流十五里ニ至ラハ須要ノ艇舸アルヘキコ
トニ言ヲ託シテ貨物ヲ船内ニ納ル、コトヲ拒ミ既
ニシテ其船梢宵間ニ歸來スルヲ約シテ二名ノ舟手
ヲ伴ヒ去リ夜闌ナリト雖レ歸來ヲサリシナリ。
十七日 事ノ齟齬スルコト此ノ如クナリシヲ以テ
朝ニ至リ徒ラニ時ヲ移セリ。二名ヲ留メ別ニ船ヲ雇
フテ追ヒ來ルヘキヲ命シテ先ツ發シ。航進スルコト
若干里ニ及フ頃一船梢ノ流ヲ下リ來ルニ遇ヘリ。於
是一艘ノ備錢七百文ヲ出シ船三艘ヲ雇ヒ夔州府ニ

至ランコトヲ商量スルニ船梢乃チ之ヲ諾セリ是ヲ
以テ復ヒ前地ニ下リ貨物ヲ其船ニ搭載シテ更ニ航
進セリ。此日天氣晴朗ニシテ前日ニ異ナラス。航行ハ
前日ニ比スレハ甚々快速忽チ一小急流ヲ過キ五十
五里ヲ經テ復念礮ニ泊ス。

十八日 土地ノ狀景ハ大抵前ト異ナラス。余船ニ後
レ來ル一群ノ舟船皆余船ヲ越ヘテ冷水磯ノ激ニ達
セントシテ急走セリ故ニ余カ舟夫モ力ヲ竭シテ橈
ヲ掉シ苦ヲ受ケスシテ七時ニ冷水磯ヲ過ク。午後ニ
至リテモ航進頗ル捷快。三時ニ及ヒ白石ノ急流ヲ越
エテ投錨セリ。

十九日 此日黎明ニ解纜ス。水流甚々急ニシテ航進

頗ル難ク。波瀾ノ洶湧ハ大抵處々相同シク時々船底
ヲ壞ラントスル勢ヲ覺フト雖モ風勢ハ極メテ便ナ
リ。舟夫ハ力ヲ竭シテ巫山ニ抵ラントスレモ水勢急
ニシテ巖石多キカ爲メニ舟行ヲ阻碍セラレテ輕駛
スルコト能ハス。六時ニ巫山ヲ距ルコト十五里ノ處
ニ至テ泊ス
二十日 四川ニ入り直ニ巫山ニ達スルコト速カナ
ルヲ望ムヨリ舟夫モ共ニ早起シ喫飯掉船ノ準備ヲ
爲ス。

未タ午時ニ至ラスシテ巫山ニ抵リ之ヲ過クルコト
四里或ハ五里ニシテ小憩シ舟夫皆ナ喫飯ス。余輩ハ
日没前ニ尙ホ遠ク上流ニ溯ルヘキノ意ヲ以テ船梢

ニ諭シ。船梢之ヲ諾スト雖モ其夜遂ニ發セスシテ碇
泊セリ。

巫山城ハ高サ三十五六尺ナル丘上ニ在リト雖モ城
壁ノ一部ハ洪水ノ爲メニ破壊シ。要地ト稱スヘキ郭
外街村モ亦皆破壊ス。雖然此省ノ人民ハ其性概シテ
事ヲ勉ムルカ故ニ此頃其損害ヲ昔ク修治セリ。

岸上丘間ノ地ハ耕耘普ク至リ。其丘陵ヲ視ルニ滿地
ノ綠葉眼ヲ喜ハス。實ニ宜昌ヲ出ル以來ノ壯觀ト謂
フヘシ。先是余輩ノ經歷セル地方ハ風景總テ荒涼慘
淡タリ此地ニ來ルニ及ヒ大ニ觀ヲ改メ。郊原ハ佳色
ヲ呈シ。城ノ内外人烟稠密豐富生ヲ樂ムノ風アリ。上
品ノ阿片ヲ製シテ其一部ヲ宜昌及漢口ノ市場ニ輸

出シ又北方大寧縣ノ地中ニ鹽水出テ之ヲ汲テ鹽ヲ製シ。其過半ハ小河ヲ下リテ大寧縣ニ輸送ス其縣城ノ郭外ナル村落ハ絹糸茶葉穀物ヲ産シ之ヲ其四隣ノ市場ニ出ス。

二十一日 今朝モ亦タ前日ノ如ク天色晴朗ナリ。諸山ハ江流ヨリ遠カリテ岸上彼此ニ小谷村落錯雜シテ蒼布シ。水勢ハ下流ニ比スルニ稍緩ニシテ上下ノ航行モ亦タ稍便ナリ。九時ニ至リ流ノ最モ急激ナル江峽ニ達シ。江底ノ傾斜甚タシト雖モ斷巖ノ航路ヲ遮絶スルノ患ナキカ故ニ唯曳船夫ヲ増スノミニシテ多ク力ヲ勞スルコトナク經過スルコトヲ得タリ。之ヨリ上ルコト若干里ニシテ更ニ復タ急湍ニ遇フ

ト雖氏前ノ者ニ比スルニ稍緩ナリ。若シ余カ舟夫善ク操船ニ力ヲ盡サハ夔州府以後ノ航行極メテ便易トナルヤ必セリ。

二十二日 此日ハ舟夫奮勵努力シテ掉船セシ故ニ有名ナル夔州峽ニ入ヲ得タリ此峽長キ一三十里アリテ兩涯嶮峻。恰モ刀ヲ以テ削レルカ如シ。峽間ハ甚タ狭クシテ水勢頗ル緩ナリ故ニ橈ヲ操シテ進行スルコトヲ得。既ニシテ峽口ヲ出テ、其口外ニ在ル夔州府ニ着ス。時正ニ午後四時半ナリ。

二十三日 初湖北省ニ於テ僱フタル船今朝歸航セリ故ニ他船ヲ備ヒ貨物ヲ轉載シ。王氏ヲ此地ノ知縣ニ遣リ前日余輩ヲ困窘シタル船梢ノ不良ヲ訴ヘシ

ヲ以テ知縣其不良ヲ罰シテ之ヲ一月ノ禁錮ニ處セ
リ雖然之ヲシテ條約ニ從ヒ雇錢ヲ返償セシムルコ
トヲ非トセリ

夔州府港ハ商賈ノ出入スルコト頗ル多ク桅、檣林立
シ、其舟ハ入港ノ順次ニ從ヒ稅關ニ到リテ檢印ヲ受
リ之ニ由テ船ノ上下スル者總テ一兩日間淹留スル
ヲ常トス。然レモ船梢若クハ旅客官吏ト親シキカ或
ハ物ヲ贈テ官吏ノ歎心ヲ買フ者ハ檢印ヲ受クルコ
ト最モ速ナリ。禁令ニ係ル物品ヲ載スル船ト雖モ亦
タ然リト云フ。畢竟一片ノ銀塊能ク路引ニ檢印ヲ捺
セシムルニ足ルト謂フヘシ

此稅ハ此省中ノ稅額中最モ多キ者ナリ。其稅關ノ官

吏ハ歐州人ノ過クル時其互市港ヨリ携へ來ル過關

路引ヲ以テ足レリトセス非常ノ苛稅ヲ貪レリ。此稅

關ヲ統轄セル馬如龍此人ハ今マ雲南兵馬ノ權ヲ握

リ。一千八百七十三年余輩上海ニ歸ルノ際知府兼稅

關統官勞氏雲南省ニテ屢々功績ヲ顯ハシ後此地ニ輸ル阿片
ニ死シタル勞崇先ノ子ナリ

網包ト信書ヲ余ニ托セリノ余ニ語ル所ニ據レハ大

抵一年ニ二十五萬兩ヲ得。其額ノ一半ハ北京ニ送り

自餘半額ノ一分ハ總督ニ交付シ。餘ハ掌櫃總管ノ櫃

中ニ納メテ諸ノ經費ニ充ツト此掌櫃總管ノ職ニ就

ク官辨ハ忽チ富ヲ致スト云フ。斯ノ如ク顯要ノ職ナ

レハ勳勞アツテ官高シト雖モ俸少キ者特恩ヲ受ク

ルノ地ト爲ス

夔州城ハ其地位甚タ高カラサルヲ以テ近頃屢々洪水ノ害ヲ受ク。一千八百六十九年大水アツテ城壘潰壞セシ者多シ當時繁盛ナル郭外ノ市村流失シ死者數千人。且府城ヲ距ルコト若干里ニ在ル峽口ノ盤渦中ニ於テ無數ノ小舟沉没シテ財貨ノ波神ニ奪ハル者枚舉ニ遑アラスト云フ。我法蘭西傳教師ノ一人ニシテ此地ニ寄留セシ者余カ爲メニ當時ノ慘狀ヲ痛言セリ

此府城ノ風俗モ四川各城府ニ於ケルカ如ク之ヲ國境ノ各省ニ比スルニ頗ル遊惰ナルニ似タリ。日既ニ没シ城外ノ夜色朦朧タル時兩岸行商ノ球燈爛々トシテ星ノ如シ。江上無數ノ艇舫優人舞妓ヲ載セ艷然

ト燈下ニ坐シテ燈火ニ相映シ。美聲琴ニ和シテ水烟ヲ破リ來リ既ニシテ客船ニ至リ曲譜ヲ出シテ曲名ヲ擇ハシム艷客花ノ如ク紅裙江風ニ翻リ故ヲニ織細ノ足ヲ露ハシ余嘗テ足ノ小ナル者ヲ見タルコトアリ人ヲ履底ノ延長ハ僅ニ一拇半ニ過キスシテ神心恍惚タラシム間亦餅菓ヲ賣ル聲アリ既ニシテ朝霞東山ニ抹シテ絃歌漸ク息ミ。夜蝶舞妓其翼ヲ収メ篷外寂然タリ頃刻アツテ復タ變シテ通商熱鬧ノ場トナレリ

此地ハ稅額ノ收入頗ル多シト雖モ工業ヨリ得ル者極メテ微ナリ。内地ノ山間ニハ阿片、米、藍、桐、桑、ヲ植ヘ四隣ノ地ハ金屬鑛アリト雖モ其掘採ノ法一定セス。二十五日夔州府ヲ解纜ス。朝間ハ天氣清涼。午正ニ

及ヒ稍々熱ヲ覺フ航路中險惡ノ地ハ既ニ經過シ盡
スヲ以テ航過シ難キ所モ亦タ甚タ尠ナク航行迅速
ニシテ水流ハ前日ニ比スルニ緩ナルカ如ク江ハ天
然ノ遮蔽ヲ脱シテ丘傍ノ耕耘セル地ヲ見ル此日ノ
行程九十里ニシテ第六時ニ停泊ス
二十六日 拂曉ニ開帆ス微風清涼ニシテ忽チ先ニ
進ミシ一簇ノ舟船ヲ超過ス八時ノ頃廟基址ノ急湍
ヲ過キシニ岩石岸ヨリ出テ、江心ニ横タハリ急ニ
舟楫ヲ轉セサルヲ得ス流ヲ下ル船ニ在ツテハ實ニ
危嶮ノ地ト爲ス若シ舟楫ヲ操轉スルコト輕捷ナラ
サル時ハ忽チ激湍ノ爲メニ簸蕩セラレ必ス巖石ニ
觸レテ沈没スルノ懼アリ是ヨリ數多ノ村落ヲ通過

シ二時ニ及ヒ復々東梁子ノ急湍ニ着キ之ヲ超過ス
更ニ之ヨリ若干里ヲ過テ黄昏六時後ニ雲陽縣ニ着
シ飯ヲ喫スルノ後郭外市街ヲ逍遙セシニ人民頗ル
繁盛ナリ

雲陽縣ハ人口盛ニシテ地質沃饒天造人工ノ別ナク
産物甚タ多シ以テ江ノ上下各地ト盛ニ貿易ス内地
ニ於テハ陸鹽ヲ掘採シ且井水ヲ汲ミ之ヲ蒸餾シテ
黑鹽粗製ヲ探ル士人ハ其形狀ノ粗惡ナルヲ省ミス
清涼有機ノ物貨ヲ含有スト云ヒ之ヲ採用スルコト
白鹽精製ニ勝レリ、又黃繭絲、桐油、阿片、茶葉ハ此地産
物中ノ最ナル者ナリ、清國稅官吏ノ語ル處ニ據レハ
近地ノ丘陵中ニ硫黃甚タ多ク清國政府其掘採ヲ創

ム、若シ貿易ノ用ニ之ヲ官ニ請フ者アル時ハ少量ト雖モ苛税ヲ徵スト云フ

二十七日二十八日 雲陽縣ヨリ萬縣ニ至ル其行程百八十里ナリ故ニ此兩日ヲ經ルニ非サレハ萬縣ニ抵ルコトヲ得ス雲陽縣ヲ發シテヨリ江幅濶大トナリ岸上諸山遠クシテ平地多ク耕耘周ク至リテ數多ノ村落ヲ爲セリ至ル所人烟稠密ナリ航路中砂洲巨巖アツテ時々曳船ヲ阻碍スト雖モ水流緩慢ニシテ危險ノ患少シ、二十八日ノ午正ニ及ヒ遙ニ萬縣樓ノ丘上ニ屹立スルヲ見ル之ヨリ江流ヲ迂廻婉轉シテ溯リ五時半ノ頃ニ及ンテ漸ク萬縣ニ達ス、是ノ時ニ於テ余輩ノ食料殆ント盡ントスルカ故ニ厨人ヲ市

ニ遣テ之ヲ買求セシメタリ先是舟人ニ米ヲ請フコトアリト雖モ彼モ亦タ米ノ缺クルコトヲ答フ、是時ニ至リ其舟人米ヲ出シテ其用トスルヲ以テ前言ノ虚伴ナルコトヲ知ル余船ノ錨ヲ投スルヤ直ニ歌妓余カ船舷ニ來リテ曲ヲ奏センコトヲ請フ、一清官有リ余ト同時ニ着シ其提琴ヲ鼓セシム其音喧嘩余輩ハ之ヲ厭フト雖モ清官ハ之ヲ聞テ旅憂ヲ慰メタリ萬縣城ハ江ノ左岸ニ屹立シテ沃地ノ中央ニ在リ、其四隣ノ地ハ罌粟ヲ耕種シテ上品ノ阿片ヲ製シ、穀類茶果ヲ植テ廣ク他方ニ販賣シ、桐樹ヲ植テ之ヨリ油ヲ採ル、又此地ヨリ鉄ヲ出スト雖モ僅ニ其地ノ需用ニ充ツルノミ、煙草ハ之ニ反シテ多分ニ耕種シ北方

各省ニ之ヲ輸送ス此地ノ人口ハ省中他地ニ於ケル
カ如ク稠密ニシテ其人民ハ大抵工業ヲ盛ニシ、殊ニ
貿易航海ノ事ニカヲ盡シ、其婦女ハ毎年省中他ノ地
方ニ移住シテ生計ヲ營ム、是レ昔ク世人ノ知ル處ナ
リ其貿易ハ妨碍スル所ナクシテ繁盛ナリ、輓近大ニ
洪水ノ害ヲ蒙リシト雖モ一千八百七十三年余カ歸
ル時ニ及ンテハ其地ノ人家多クハ舊ニ復シ、其他ノ
百事モ亦故ノ繁盛ニ復シ、大ニ面目ヲ改メタリ
二十九日 萬縣ヲ開船ス是時濕霧朦朧トシテ寒冷
ヲ覺ヘ、日出ルニ及ヒ霧晴雲散シテ、數多ノ舟舶余カ
船ト共ニ發シ航路險惡ナラサルカ故ニ水勢急ナリ
ト雖モ之ヲ溯ルニ難カラス、加之順風吹來リ楫帆ノ

力ヲ助ケテ舟行頗ル疾シ挽夫ヲシテ疾走セシメタ
リ萬縣ヲ距ルコト九十里一大村落ニ到テ休憩ス、時
正ニ五時半ナリ
三十日 此朝天雨フルヲ以テ舟夫ノ起ルコト晚シ、
夫レ舟夫ハ總テ時ニ臨ンテハ直ニ河水中ニ身ヲ投
スルヲ其務トスルニ清國舟夫ノ雨ヲ恐ル、ト斯ノ
如クナルハ怪ムヘシ、七時半漸ク開船シ、十一時ノ頃
天際雲開ケテ日光始テ出テ以テ陰鬱ノ氣ヲ散シタ
リ此日航進ハ昨日ニ於ケルカ如ク、風吹來ラスト雖
モ水流ノ緩ナルヲ以テ其行甚タ速ナリ
余夔州府ヲ發シテヨリ以來水流ノ緩ナル地ニ至レ
ハ屠夫、小船ヲ浮ヘテ水流ヲ下ル船ニ牛羊肉ヲ賣ル

チ視ルコト日ニ數回、此日モ午後一時ナルヘシ、此肉
船ノ客船ニ肉ヲ賣ルヲ視タリ此時屠夫其肉錢ヲ筭
シ之ヲ取メントセシ間其傍ニ在リシ小童竊ニ其客
船ノ臥具細包二包ヲ盜ミ之ヲ其船ニ移シテ其中ニ
潜匿セリ屠夫小童ノ盜ミ得タルヲ知り其受クル肉
錢ヲ檢筭スルニ違アラヌ直ニ其客船ヲ離レ力ヲ極
メテ遠カリ去レリ、客船初メテ之ヲ覺リ賊アリト呼
ヒテ之ヲ追フト雖モ水流急ニシテ及ハス此時余カ
船邊ニ來リ窺フ者アリ、船夫早ク其惡漢タルコトヲ
察シ鈎竿ヲ以テ其船ヲ鈎シ急ニ余ヲ呼ヘリ余其聲
ニ應シテ直ニ至レハ賊之ヲ見テ狼狽シ其既ニ掠奪
セシ者ヲ盡ク棄テ一齊ニ水中ニ投シテ逃レ去レリ

時ニ其掠奪ニ遇ヒ賊ヲ追フノ狀ヲ爲シテ來ル者有
リ賊ノ船中ニ棄去リタル者ヲ得ンコトヲ請ヒテ詭
キ以テ他人ノ物ヲ奪ハント欲セリ於是船夫其同シ
ク賊ナルヲ察シ之ヲ脅赫セリ賊之ニ恐レ喃ヤトシ
テ去ル、頃刻アツテ其賣肉船ヲ放縱スレハ其船人同
夥ト共ニ來ツテ之ヲ捕リ去レリ既ニシテ再ヒ船ヲ
進メ江流ヲ溯リ五時半夕陽將ニ西山ニ春カントス
ル時ニ及ンテ船ヲ停ム
十二月一日 天氣晴朗ニ復シテ濕霧ヲ拂フ、船夫モ
余輩ノ如ク速ニ忠州ニ達セントスルカ故ニ力ヲ極
メテ搖船シ航進スルニ從ヒ土地ノ愈々沃饒ナルヲ
覺フ、從是下流四川ノ地ハ峻山々峽多ト雖モ此地

ニ到テ丘上ニ至ルマテ耕地多ク彼此ニ山アリテ連
亘スト雖凡土地ハ大抵沃饒ニシテ人民多シ二時半
忠州ニ抵ル

忠州城ハ萬縣ヲ距ルコト二百七十里、江ノ左岸沃野
ノ中央ニ在リ圓形ニシテ層樓有リ大平賊亂ノ際巨
財ヲ蓄積スル清國官吏并ニ豪商皆此地ニ集レリ
忠州ハ人民輻輳ノ地ナリト雖凡其居民ノ數ニ比ス
ルニ貿易盛ナラス其地ニ耕種シテ最モ貴要トスル
者ハ稻ニシテ山ヨリ下ル水流ノ灌溉スル廣谷中丘
上ニハ盡ク之ヲ植エ内地ハ苧蔴ヲ植エ阿片ヲ採リ
蠶ヲ養テ繭絲ヲ製シ到ル處何レニ在テモ農業ヲ專
ラトス、余ト同行ノ官吏ノ語ル處ニ據レハ此地ハ稅

關ヲ設ケ其地ノ土人、外國物品ヲ携ヘ歸リテ之ヲ其
地ニ賣ラント欲スル者ハ其物品ニ稅ヲ課スト、夫ヨ
リ更ニ航進シ午後六時ニ及ンテ船ヲ停ム
二日 早起窓ヲ推セハ濃霧四塞シテ舳頭ヲ行ク船
已ニ朦朧ノ中ニ在リ余カ船ノ挽夫ノ如キハ唯其聲
ヲ聞クノミニシテ其形ヲ見ス、十一時ニ及ヒ始メテ
日光見ハレ頃刻ニシテ東北風吹き來ツテ舟行大ニ
易ク航進ノ度常ニ同シ、此ノ如クシテ徐クニ兩山ノ
間ヲ進メリ故ニ恰モ船中ニ閉居スルカ如ク倦怠鬱
憂殆ント堪フル能ハサルニ至ル、於是余輩ハ陸地ニ
上ルノ便ヲ得レハ則陸地ヲ步行シ或ハ船ノ徐行ス
ル間ハ内地ヲ奔走シテ野獸ヲ搜索セリ、然レ凡唯叢

林ニ入ル時草木ノ間ヨリ班鳩ノ飛揚シテ翔去シ羽
黒クシテ形雀ニ齊シキ小鳥群ヲ爲シテ江岸或巖石
ニ飛ヒ去ルヲ見ルノミ一野人余ニ語テ曰ク披涉數
日ニ至ラハ必ス野獸ヲ獲ヘシト午後六時ニ停泊ス、
此日ノ路程百二十里ナリト云フ
三日 朝霧昨朝ニ比スレハ更ニ重濃十一時始メテ
霽ル江中急湍ナシト雖モ時々沙洲有リテ挽船遲滞
ス一時半鄧都縣ニ達ス、之ヨリ復タ航進シテ五時船
ヲ停メ舟夫等ニ喫飯セシメ須臾アツテ月ノ明ナル
ト風ノ便ナルトニ乗シ帆ヲ開ヒテ更ニ航進シ七時
半ニ及ンテ停泊ス、是時他船モ亦タ余ト同シク航進
スルヲ視ル此日ノ航路百里ニ滿ツ

鄧都縣ハ江ノ左岸ニ在リテ涪州ニ近ツキ其地ハ稻
麥、粟、蠶豆、等ヲ耕種スルコト多カラヌ又黃白ノ繭
絲モ之ヲ製スルコト少キヲ以テ其人口ノ數ニ比ス
ルニ貿易盛ナラス然モ大ニ錢鏹ニ富ミ土地ノ商賈
ハ大ニ其業ニ勵ミ舟人ニ物ヲ繫クヲ專ラトセリ凡
ソ四川人ハ商業ニ力ヲ盡シテ之ニ熟スルカ故ニ其
利ヲ見レハ能ク事ニ堪ヘテ之ニ倦屈スルコトナク
必ス之ヲ遂ケサレハ已マス、若シ一事ニ其功ヲ見サ
レハ更ニ他事ニ轉シテ其損ヲ償ハシテ謀レリ
四日 六時ヲ過キテ發ス、此日天氣陰靄タレモ霧無
シ十時ノ頃大船ノ江中ニ沈沒スルヲ視ル此船ハ劇
風ノ爲メニ簸盪シ巖石ニ衝突シテ沈沒セシナリ其

船夥船賃ノ如キハ之ヲ救フコトヲ得タリト云フ江
流中處々ニ沙洲水柵アルヲ以テ爲メニ水流激昂ス
故ニ之ヲ溯ルコト甚タ難ク漸ク之ヲ航過シテ數村
落ヲ過キ三時ニ及ヒ遠ク涪州城ヲ望ミ四時ニ至テ
涪州ニ抵ル

涪州城ハ江ノ右岸涪陵江湖南及貴州ノ出ル所ニ在

テ各種ノ物品ヲ産スルヲ以テ商賈輻輳ノ地トナリ、
其地ハ沃饒ニシテ殊ニ上品ノ茶ヲ産ス清國人之ヲ
公山茶ト稱シテ之ヲ賞用ス

此地ニ至リ涪陵江ハ楊子江ニ會合シ四川湖南貴州
ノ各城互市ノ要道トナリ外國品ヲ湖南貴州兩省ノ
國疆ニ輸送スルニモ亦大抵此江ニ由ル、江中ハ數多

ノ急湍アリ故ニ此江ヲ往復スル船ハ其造法急湍ヲ
自由ニ通過スルヲ得ルニ便ス

五日乃至八日 五日朝間涪州ヲ發シ四日ヲ經テ八
日ノ午後六時ニ重慶府ニ抵レリ

涪州ヲ發シテヨリ江流平易トナリ諸山ハ漸次ニ江
濱ニ相近ツキ航進スルコト二日ニシテ長壽縣ニ抵
ル、此兩日間毎朝濃霧四塞シテ日出ルノ後其光ニ遇
フテ漸ク消散ス

長壽縣ハ左岸ニ在テ其人民ハ百事ニ勉勵シ、工業ヲ
好ミ、蔴、席及蔴繩ヲ製シ谷中ニ多ク竹ヲ生スルヲ以
テ之ヲ以テ諸物ヲ製ス、此地ヨリ出ル阿片ハ此地ノ
天産中最貴ノ品トシ、此地ニ多ク耕種スル甘蔗ハ製

糖場ノ要品トナル、
 長壽縣ト重慶府ノ中間沿江ノ地ニ丘陵相連リ丘陵
 上ニ村落アリテ家屋層々タリ其地ノ農夫ハ他ノ植
 物ニ適セサル地ニ甘蔗ヲ植ヘテ利益ヲ獲ルコトニ
 力ヲ盡セリ
 沿江ノ丘陵上ニ生スル甘蔗ハ南地ノ甘蔗ト異ナリ
 テ短小ナリ長キモ五尺ニ滿タス、其竿ハ堅韌ナリト
 雖モ糖分ヲ含メルト他種ヨリ多ク其堅韌ナルヲ以
 テ高地ニ植ユルト雖モ折倒セサルノ利アリ
 重慶府ハ漢口ヲ距ルコト大抵七百五十佛里ナリ故
 ニ四十九日餘ヲ費スニ非サレハ此地ニ抵ルコトヲ
 得ス余漢口ヨリ重慶府ニ抵ルノ間ニ於テハ凡百ノ

艱苦ヲ嘗シト雖モ災害ニ罹ラス幸ニシテ此地ニ達
 スルコトヲ得タリ之ヨリ以後ノ旅行中尚ホ危險ノ
 事有リト雖モ既ニ經歷セシト多キヲ以テ恐ル、ニ
 足ラス唯恐ルヘキハ天災ノ一事ノミ
 余輩始メテ重慶府城ヲ視ルヤ少^ヤ心ヲ慰ムル所アリ、
 何トナレハ此地ニハ吾同國人ナル宣教師在ルヲ以
 テ之ニ會シ且ツ數週以來絶テ聞カサル歐洲新事ヲ
 聽クコトヲ得レハナリ
 重慶府ハ嘉陵河ノ楊子江ニ會合スル一角ノ丘陵上
 ニ在テ四川省中最モ人口ニ富タル大府城ノ一ナリ、
 其城ハ丘陵上ニ在ルカ故ニ之ヲ距ル遠シト雖モ之
 ヲ視ルコトヲ得其城壘ハ丘陵ノ迂曲ニ從ヒ築クカ

故ニ殆ト江水中ニ入ルノ狀ヲナス又重慶府ハ清國最大江揚子ノ左岸ト陝西國疆ヨリ降ル大河嘉陵ノ河口ニ在リ故ニ自ラ雲南貴州陝西甘肅西藏各地ヨリ人民輻輳スルノ要地トナリ此各地ノ豪商ハ大抵此地ニ家ヲ設ケ管事シヤイコンヲ置キ物産ノ賣買ヲ管セシメ湖北及江蘇ノ諸港ト往復シ西方諸地ノ物品ヲ交易ス

重慶府ト漢口或宜昌ノ間ヲ交通貿易スル船數殊ニ著シク江ノ上流ニ於テ歐洲人ノ爲メニ開ク諸港ト直ニ交通スル者ハ殆ント此重慶府一地ニ限ルヘシ此地氣候温暖人ニ佳ナリ、冬時ハ寒氣嚴酷ナラスト雖モ大氣常ニ濕ヲ帶ヒテ陰霧多シ

暑中ハ江水大ニ増シテ其極高ニ達シ水流暴激ニシテ江邊處々ニ盤渦ヲ生シ其盤旋恐ルヘキ勢ヲナス、其險ヲ冒シテ航スル舟船實ニ僅々數フヘシ故ニ交通貿易モ自ラ其勢ヲ減シ、痴愚ニシテ水勢ヲ懼レス之ヲ冒シテ船ヲ出ス者ハ其船巖石ニ衝突シテ粉碎シ生命ヲ失フコト往々之アリ、此ノ如クシテ毎年生命ヲ殞シ物品ヲ喪失スル者甚々多シ、此水流暴激ハ唯水高ノ非常ニ増ス時ノミトス故ニ其時間ハ十五日ニ過キス此時間ニ於テ船主ハ其船ヲ修理シ船ニ貨物ヲ搭載シ水高ノ低下スル時ヲ俟ツテ開船ス余カ親キ清官七月一日ニ漢口ヲ發シ宜昌ヨリ舟夫ヲ倍シテ航進スト雖モ三月ノ日數ヲ經テ後重慶府

ニ達セリ此一事ヲ以テ夏時重慶府ニ航進スルノ難
キヲ知ルニ足ル
爰ニ至ルマテ備ヒタル船梢ハ此地ヨリ上流ニ至リ
シコトナクシテ其航路ヲ詳ニセス故ニ之ヲ溯ルヲ
肯セス且之ヲ溯ラントスルモ別ニ錢ヲ損シテ他人
ヲ備ハサルヲ得ス故ニ寧口別船ヲ雇ヒ唯夔州府ニ
於テ備フタル船ノミ率井ルヲ善トス是此舟ハ嘗テ
此上流ニ至リシコトアル故ナリ於是之ヲ備フテ納谿
縣ニ抵ルコトヲ約セリ偶マ納谿縣ヨリ永寧ニ下ル
船ノ來リ泊スル有リ之ヲ備ヒ貨物ヲ轉載シ尙ホ泊
スルコト數日蓋シ入必君夔州ニ於テ其官吏ト約スル
コトアツテ尙ホ其地ニ留レハナリ

發重慶府抵雲南府

十二月二十日 午前十時重慶府城壁下大平橋ノ碇
泊場ヨリ開船ス前是予輩ノ此地ニ到着セシ日ヨリ
天氣陰靄濕霧四塞大陽ヲ見ルコト一二度ニ過キス
此朝モ亦タ濃霧江上ニ彌布シテ十歩ヲ距ル處ニ碇
泊スル船ヲ視ルコト難シ是以テ余輩ハ頗ル航進ニ
苦心セリ重慶府ヨリ溯ルニ從ヒ諸山漸次ニ江邊ヨ
リ遠カリテ岸上ハ唯丘陵ノミ其丘陵ノ麓ニ連亘ス
ル平野ハ年々楊子江ノ水濫入シテ泥ヲ遺シ去リ之
カ爲メニ其地肥沃ト爲ルト云フ此處ヨリ楊子江幅
濶大トナリ江流ハ急湍ナラス唯洪水ノ際ニ生スル
砂洲アル邊ニ至リ少シク其流勢ヲ増スノミ余輩ハ

徐々ニ航進シ勞セスシテ流勢ノ急湍ナル處ヲ超過ス此地冬月ハ常ニ朝間濃霧ヲ布ク故ニ余輩ノ開船スルコト晩シ大氣清純ニシテ濕氣ヲ帶フ然レモ氏ノ寒暑針ハ嚴寒ノ候ニ於テモ七度ニ下ラス此地方ハ地勢宜シクシテ其景色モ亦タ觀ニ足ル是ヨリ東方四川省中沿江ノ野ニ比スルニ肥沃ニシテ民農ヲ務メ耕種到ラサル處ナク山間ノ地ハ果樹甘蔗甘藍芥菜ヲ培栽シテ層々ニ簇生シ濫水減退スレハ沿江ノ諸地モ亦タ皆耕種ノ場ト爲ル

重慶府ヲ發シ三日ヲ經テ江津縣ニ至ル江津縣ハ江ノ右岸橙樹ノ繁生スル丘陵下ニ在テ左岸ノ沃野眺望極マラス此地ノ人民ハ他ノ地方ト交易スルコト

ナク其土地ノ肥沃ナルヨリ專ラ耕作ヲ業トシ傍ラ此地ヨリ下ル貨物ヲ運搬シテ生計ヲ營ム其郭外ノ市村ハ一千八百六十九年同治八年洪水ノ害ヲ蒙リ多分壞破セシト雖モ速ニ故ニ復セリ

二十三日乃至二十六日 風雨ナキ平常天氣ニ於テハ江津縣ヨリ合江縣ニ至ル三百八十里

里ニレテ法國尺五百米突(大約我カ五丁餘)ニ當ル是レ清國通用ノ里程ナリト雖モ各省(殊ニ山アル省)ニ於テ稍其長チ異ニス以上以下里トアルハ清里ナリ他皆ナ之ニ倣ヘ 四日間ニ經過セリ

江津縣ヲ發シテ航進スルニ數村其航路中ニ在リテ連綿ト相屬シ多クハ樹木繁生スル山頂ニ並列シ其山頂濃霧ニ隠レテ山頂ト山麓相離レ村落ハ恰モ空中ニ懸ルカ如シ進ムニ從ヒ製糖所製紙場造酒場陸

續トシテ絶ヘス人有リ舟ニ乗シ其製出セル者ヲ以テ來リ鬻ク其價甚タ廉ナリ又此品ヲ以テ敘州府以下ノ停船場殊ニ重慶府ノ大市場ニ必要ナル物ト交易スル者アリ舟手疲勞シテ航進漸ク困難ト爲リ日將ニ暮レントスルニ及ヒ舟手等大ニ喜ンテ曰ク奴輩之ヨリ粗飯ヲ喫シテ翌朝マテ休憩セント此時濃霧降り且數多ノ砂洲江峽中ニ在ルヲ以テ航進スルコト難シ是以テ龍門灘下流ニ碇泊ス此日ノ航路中ニ於テ船半ハ水中ニ沈ミシ者數艘有リ其船手其貨物ヲ地上ニ展擺シテ乾カセリ顧フニ巖石ニ衝突シテ沈ミシ者ナラン

二十四日ノ朝龍門灘ヲ超過ス此灘ハ水底ノ高低殊

ニ甚シク航路ノ中央ニ巖石横ハルヲ以テ之ヲ繞廻セサルヲ得ス故ニ之ヲ超過スルコト甚タ難シ然レモ沿江ノ人民ヲ雇ヒ之ニ金ヲ與ヘテ操船ニ力ヲ盡セシメシヲ以テ幸ニ無事ナルヲ得タリ其後所々ニ小灘有リ時ニ曳船ニ阻碍ヲ爲スコトアリテ快駛スルコトヲ得ス午後六時北山ト稱スル大村ノ邊ニ投錨ス

二十五日此村ヲ發シテ航進スルニ或ハ狹窄スル處アリト雖モ多クハ廣濶ニシテ流勢モ從テ緩ナリ砂洲巖石アリト雖モ互ニ相距ルコト遠ク北東風吹キ來テ駛走快速ナリ雖然舟手舵ヲ操スル宜シキヲ得スシテ之ヲ破折セリ故ニ已ムコトヲ得ス船ヲ停ム

於是余ハ上陸シテ其地ノ製糖所ヲ訪視スルコトヲ得タリ

二十六日ニ至リ上流二十里ニ當テ廟樓ヲ視ル是以テ合江縣ノ近ツクコトヲ知り須臾ニシテ合江縣ニ達シタリ此地ハ人口稠密ニシテ專ラ工作ヲ業トシ其人民ハ柔和ニシテ人ヲ惠ム心アリ絹布ヲ織ルカ如キ諸工職ニ力ヲ盡シ之ヨリ下流城市ノ人民ニ比スレハ風俗淡泊ナリト雖モ商業ニ迂濶ナリ一千八百六十八年及九年ノ洪水ニ由テ此地大ニ荒壞スルコト全地ノ三分一ニ居ル郊外ノ市街ハ殘壞シ盡セリ此地ハ藍ヲ産シ之ヲ重慶府ノ市街ニ輸出ス

二十七日 合江縣ヲ發シテヨリ舟手等力ヲ極メテ

航進シ午後四時ナル可シ老瀘州ヲ過キテ六時饅頭ニ投錨ス老瀘州ハ洪水ノ爲メニ掃蕩殆ント盡キ唯城壁土壘跡ヲ留メテ其城址ナルヲ知ル可シ此地ハ大概山間ニ在リテ諸山江ニ近ツキ其江底狹クシテ砂州多ク巨巖江中ニ在リテ江ヲ分隔シ爲メニ水流激昂ス是以テ舟手大ニ勞シテ之ヲ溯リ爲メニ船ノ行クコト緩徐ナリ余輩ハ倦屈ス可シト察セシニ船ノ進ムニ從ヒ漸次ニ山野ノ好景移リ來リテ船行ノ緩徐ナルヲ覺ヘス心神快爽毫モ倦屈ヲ起サス歲將ニ暮ントスト雖モ草木繁生シテ野ヲ蔽ヒ山阜悉ク耕種ノ到ヲサル所ナク以テ大ニ心ヲ慰メタリ

二十八日 饅頭ヲ發シテ瀘州ニ達ス瀘州ハ江ノ彎

曲スル一角ニ在テ往時ハ四川中貿易最盛ナル地タ
リシト雖何レノ頃ヨリカ商賈皆重慶府ニ移リ府
中繁盛ニ起クニ從ヒ此地ハ大ニ衰へ寥トシテ復タ
往日ノ觀ナシ雖然瀘州ハ漕運ノ要地ニシテ殊ニ工
業最盛ナリ是以テ其獲ル所ノ繭絲ハ悉ク之ヲ組織
シ或ハ之ヲ以テ各種ノ匾條ヲ製シ或ハ之ヲ以テ染
絹及素絹ヲ製シ其價モ亦廉ニシテ湖廣及江蘇ノ各
市場ニ出シ殊ニ俳優ノ美服ヲ製シテ之ヲ鬻キ價亦
廉ナリ且隣地ニ生スル樹果ヲ糖製シテ復タ之ヲ隣
地ニ販賣ス其匾條ノ如キハ恰モ其地ノ專賣物ナル
カ如シ

一千八百六十九年同治七年ノ洪水ニ由テ郊外ノ市街壞

破セシト雖今ハ既ニ故ニ復シ小船江中ニ往復シ
テ屋外ニ露店ヲ出シ商賈其奴ヲ呼使シテ其聲喧ク
數多ノ人民市中ヲ徘徊シテ故ヲニ繁盛ノ狀ヲ示メ
シ以テ此地ヲ盛ンニセントスル者ノ如シ
此地ノ北東數日行程ヲ距レハ土人多ク鹽井ヲ穿開
シテ多量ノ陸鹽ヲ採リ之ヲ四川ノ西地及貴州雲南
ノ疆界地ニ送致ス此鹽ヲ製スル者ハ地方官吏ヨリ
稅ヲ徵取セラル、コト多シト云フ

二十九日 瀘州ヨリ開船ス朝間天氣快爽日光斜メ
ニ丘頂ヲ照ラシテ黄金色ヲ抹シ余カ舟夫等ハ其將
ニ約定ノ處ニ近カントスルヲ見テ大ニ喜ヒ咸ナ奮
勵シテ船ヲ運轉シ金沙江楊子江重慶府ヨリレニ至リ水

勢急ナル所ヲ溯リ一時ノ頃納谿縣ニ近キ三時間暗
州ノ間ヲ航過シテ納谿縣ニ抵リ投錨ス此縣ハ瀘州
ヲ距ルコト六十里ナリ

三十日 此日納谿縣ニ駐停ス納谿縣ハ永寧河ノ金
砂江ニ會合スル處、江ノ右岸ニ在テ其人口多カラス
其地ハ天産物ニ富メリ故ニ四川中他地人民ハ盛シ

ニ交易ヲ爲スト雖此地ノ人民ハ之ヲ爲ス者稀ナ
リ其郭外ノ市街ハ江ノ左岸ニ連擴シテ貴州及雲南
ニ赴ク官吏及旅客ハ此ニ休泊シ且永寧河此河ハ永寧

往來スルヲ得ル八十里ノ間船ヲ以テニ由リ舟ヲ以テ紙類阿片藍等ヲ運
輸々來ル者ハ一時此諸品ヲ此ニ蓄積ス故ニ此地自
ラ繁盛ナリ此諸品ヲ載來ル舟ハ大江中他港ニ至ル

コト希ニシテ大抵此地ニ於テ此品ヲ他船ニ轉載シ
或ハ瀘州ニ下リテ之ヲ他船ニ轉載スト云フ余ハ啓
行以來全ク清人風ニ擬装シ清國語ヲ以テ對話ス故

ニ清人余ヲ認テ歐洲人トスル者希ナリ然レモ余ハ
事々慎戒シテ冗事ニ與ラス加之行李ヲ搭載スル舟
ヲ雇フ等ニ就テ清國地方官吏ト應接スルニハ余輩

ヲ誘行スル清國官吏ニ委子テ之ヲ行ハシメタリ
納谿縣ヨリ貿易路叙州府ニ上ル金ヲ通シテ叙州府ニ

至リ之ヨリ轉シテ大關河ニ入り直ニ雲南ニ抵ル可
キ路アリ此路雲南ノ北疆老佐關ニ至レハ稅關有リ
テ稅ヲ課ス然レモ唯此地ノミニシテ他ニ之ヲ設ク

ル所ナシ故ニ其行程四十日ヨリ餘シト雖モ其費用

反テ多カラス一千八百六十八年同治七年加呢爾艦ノ士官及刺格勒教徒此路ニ由レリト云フ余ハ此路ニ由ラス納谿縣ヨリ貿易路ヲ離レ三十日内外ニシテ雲南府ニ抵ル可キ他路ニ由テ行進セントセリ此路ハ貴州省ノ地ヲ北ヨリ西ニ通シ其中貴州省ヨリ關ヲ設ケテ商貨ニ苛税ヲ課スル處アリ故ニ商賈ハ皆此路ヲ以テ不便トセリ

三十一日 此日清國官吏ハ余輩此地ニ嫌キテ發程ニ急ナルノ意ヲ察知シ余カ爲メニ舟ヲ雇フコトニ力ヲ盡シテ三艘ヲ雇ヘリ然レモ其舟ノ來ル午後五時ニ至リシヲ以テ行李貨物ヲ搬載スルノ時無ク翌日ヲ待テ之ヲ搬スヘシトセリ是時ニ方リ永寧ヨリ

來ル一商賈アリ余ニ語テ曰ク河水甚タ淺ク往々舟底砂ニ膠スル所有リテ騎シテ陸上ヲ行キタリト余之ヲ聞キ喜テ曰ク余既ニ舟行ニ厭ケリ若シ陸上ヲ行カハ必ス風光奇景ノ眼ヲ嗜ハスアラント

一千八百七十一年同治十年一月二日 昨日一月一日ハ終日貨物ヲ搬載シ余モ亦タ負擔スル事ニ就テ千思萬慮シ自ラ其日ヲ消費セリ新ニ雇ヒシ舟ハ楊子江中ノ舟ニ比スルニ長クシテ狭ク其底ハ堅牢ニシテ砂礫上ヲ拖クニ堪ヘ亦タ之ニ柁ヲ設ケ水淺クシテ船ノ通過シ難キ時ノ爲メニスルナリ一昨余ノ會セシ商賈ハ河水淺クシテ通過シ難キ所多シト語りシト雖モ余カ舟夫ハ總テ言フ商賈ノ言信シ難シト是ヲ以

テ其爲メニ淹滯スルノ患ナキヲ思ヘリ余輩ヲ誘
行スル清國官吏ハ昨日此地ヲ發シ陸路ニ由テ永寧
ニ赴キ余輩其地ニ到ラサル時間ニ於テ之ヨリ復々
發スルノ準備ヲ爲サントセリ
此日此地ヲ發シ河口ニ至ルニ其河幅大約三十間餘
有リ進ムニ從ヒ漸次ニ狹窄シテ其幅河口ノ半ニ至
レリ綠樹ノ簇生スル丘陵間ヲ航過スルニ水流急激
ナラス航進スルニ從ヒ佳景移リ來リテ愛スヘシ或
ハ山々並峙シテ竹其上ニ叢生シ其山間ハ蔬菜茶罌
粟ヲ植ユル地多ク或ハ景竹ト稱スル一種ノ竹ヲ植
ユ此地ノ人民ハ此竹ヲ以テ紙ヲ製シ此河ニ由テ楊
子江邊ノ諸市場ニ輸送シ大ニ利ヲ獲ルト云フ故ニ

此竹林ニ斧ヲ入ル、ニ其時ヲ定メテ妄ニ伐ルヲ禁
シ常ニ其竹ノ繁殖スルコトニ意ヲ注クト
三日 此日天氣晴朗拂曉ニ開船シテ數村ヲ過キタ
リ村々ノ人民皆業ニ勉勵シテ安靜ニ生計ヲ營ニ森
林中ニ結構スル廟祠ニ參詣スル人常ニ絶ヘス旅客
ヲ守護スル神ニ猷スル標柱ハ路傍處々ニ在リ是ヲ
以テ此地ノ人民ハ神意ヲ奉シ旅客ヲ惠ム心有ルコ
トヲ知ル
河道中岩石暗洲有リテ船底之ニ膠シ爲メニ航進シ
難キコト屢々之アリト雖モ水流ハ總テ緩徐ナルニ
由テ湖リ易シ故ニ此日ニ於テ船ノ航過スルコト八
十里ナリ

四日 十一時ノ頃狹峽ニ入り絶壁ノ間ヲ航通スレ
 ハ河道狹クシテ上下ヨリ來ル船ノ相磨シテ過クル
 コト甚タ難シト雖モ幸ニシテ狹中水勢極メテ緩慢
 ニシテ恰モ瀦水ノ如クナルヲ以テ危険ノ患アルコ
 トナシ其絶壁中ニ挽路ヲ穿開シテ船ヲ挽ク者ニ便
 シ傍ヲ納谿縣ト永寧縣ノ間ヲ陸行スル人ノ通路ト
 ス航進スルニ從ヒ或ハ一二ノ急湍アリテ舟行困難
 ナリト雖モ河水深ク且常ニ河濱ノ人ヲ雇フテ舟夫
 ヲ助クルヲ得ルカ故ニ甚シキ危険ヲ冒サスシテ之
 ヲ超過シ午後四時峽中ヨリ山間ノ地ニ出夜ニ及フ
 迄此地中ヲ航進セリ

五日 朝間濃霧朦朧トシテ野ヲ蔽ヒ洪水ノ爲メニ

砂礫河中ニ堆積シテ堆砂所々ニ在リ故ニ船ヲ挽カ
 シメテ之ヲ過キ何レノ處ニ在テモ河水大ニ減セシ
 ヲ以テ余カ船梢ノ云ヘルカ如ク雨降ヲサレハ河水
 ヲ下ル能ハサルノ恐ヲ懷キ夫ヨリ數村ヲ過クト雖
 モ凡テ雲霧ノ間ニ在テ之ヲ視ルコトヲ得ス唯人聲
 鶏鳴ヲ聞キ村童ノ岸邊ニ立テ余輩ヲ異ニ瞰ル有ル
 ノミ

午後ニ至テ日出テ四邊ノ地始テ明ナリ之ヨリ河道
 漸ク濶大トナリテ丘陵河濱ノ處々ニ並立シ其位置
 天際ニ並峙スル諸山ノ間ニ在テ遠ク之ヲ望メハ其
 諸山相連ナルカ如シ田圃ハ蔬菜ヲ耕種スル多クシ
 テ近隣ニ城市ノ在ルヲ知レリ河ノ迂廻スル處ヲ航

進スルキ其前方ニ通スル大路ヲ望メハ一群ノ擔夫
鹽ヲ負擔シテ永寧縣ニ赴クヲ視ル舟夫ハ此日永寧
縣ニ達セント欲シテ皆操船ニ力ヲ盡セシト雖也遂
ニ達スルコト能ハス尙相距ル二十里ニシテ投錨セ
リ
六日 拂曉ニ船ヲ發シテ午前六時ノ頃永寧縣ニ抵
リ上陸セリ先是清國官吏王氏此地ニ來テ余ヲ俟テ
シカ故ニ余ノ上陸スルヤ直ニ來リ迎ヘテ旅亭ニ至
レリ余輩ハ船中ニ在ルコト兩月餘ナリシヲ以テ今
此旅亭ニ宿スルヲ得テ大ニ快樂ヲ覺フ而シテ此旅
亭ノ器皿ハ粗製ニシテ其食物モ淡薄ナリト雖也船
中ニ在テ隨意ニ飲食スルヲ得サルコト久シキヲ以

テ其味濃厚ナルヲ覺ヘ加フルニ舟人ノ喧噪ヲ脱シ
テ山野ノ清氣ニ中リ旅中日々ノ煩ヲ免レシヲ以テ
恰モ囚人ノ羈絆ヲ脱シテ放縱セラレタルカ如シ
永寧縣ハ山間沃土ノ中央ニ在リテ人口ニ富ミ貴州
及雲南ヨリ來ル商賈ノ駐停スル所トナリ永寧河其
中央ヲ流レテ之ヲ左右ノ兩區ニ分ツ其右區ハ土人
及貴州ノ商賈住居シ其左區ハ要地ニシテ其街衢垣
壁ヲ繞ラシ其郭外ハ專ラ諸地方ト交易スル處トナ
リ數多ノ橋梁ヲ設ケテ兩區互ニ交通スルノ路トス
四川ノ疆界赤水河ニ及ハサル以前ハ其河ノ右岸ノ
地ヲ以テ貴州ノ屬地トシ貴州ノ官吏此地ニ居テ之
ヲ管理シ左岸ノ地ヨリ來ル諸商賈ニ稅ヲ課セシト

云フ

永寧縣垣壁下ニハ船戶群居シ數多ノ騾馬諸方ニ往來シ又數多ノ擔夫アリテ形大ニシテ馬ニ馱シ難ク破碎シ易キ物ヲ運搬セリ此擔夫ハ山地ニ生ル、ヲ以テ平野ノ人ニ比スルニ身幹高クシテ強壯ナリ故ニ一地ニ駐テ業ヲ執ルヲ嫌ヒ神思ヲ勞セス諸地ニ遊走シテ生業ヲ營マント欲シ苟モ利ノ在ル所ハ其事ノ難キヲ省ニス貴州ノ北西地並ニ雲南地方ニ至ル迄斯ノ如キ擔夫アリテ或ハ景德鎮ノ官有製造場ノ陶器ヲ雲南ニ運輸シ夫ヨリ普洱ノ茶清國中央地市街ニ於テ之ヲ藥品トシ尊重スラ運搬シテ之ヲ中央地ニ輸送シ或ハ瀘州ヨリ畢節縣威寧州各地ノ村

落ニ鹽ヲ搬輸シ又其鹽ニ易フルニ藥品並ニ鉛(此地ノ含銀硫鑛ヨリ採取スル者)ヲ以テシ以テ之ヲ瀘州ニ搬輸ス

王氏ハ百事ヲ管理スルノ任ヲ負フカ故ニ余輩一行人馬ノ諸事モ亦タ管理シテ或ハ他ノ清國官吏ト事ヲ議シ或ハ馬主ト商量シテ馬ト擔夫ヲ雇ヒ其價ヲ定ム凡ソ清國ノ習俗ニ牛馬一匹ニ馱スルノ量ハ清量百斤注蘭西六十ヤロカラムニシテ我十六貫内外ニ當ルニ過出セシメサルヲ以テ貴州雲南ノ嶮山峻嶺ヲ超ヘ馬ヲ以テ軍器ヲ運搬スルヲ頗ル易ラス是以テ小櫃ヲ運搬スルニ騾馬百二十匹ヲ雇ヒ大櫃ヲ運搬スルニ擔夫二十名ヲ雇ヒタリ

王氏馬主ト商量シ貨物ヲ秤稱シテ雇錢ヲ定ム其之
ヲ秤稱スルヤ老板馬主ヲ云フ自ヲ其場ニ臨ミ他人ヲシ
テ加秤十。二十。四十。五十。等ノ重錘ヲ添加シテ秤稱ス
ル秤ヲ云フヲ用ヒ之ヲ行ハシム然ルニ其稱リテ後
之ヲ檢スレハ百斤ノ物ハ必ス百二十斤ト爲ル余其
由ル所ヲ如ラス之ヲ老板ニ問フニ強テ之ヲ釐正ス
ルノ意無シ恠シムヘシ
秤シ畢ル時馬夫ハ直ニ各櫃ヲ極上ニ載セ草條ヲ以
テ之ヲ緊縛シ之ヲ馬上ニ駄シ馬厩ニ至テ發出ノ時
ヲ待ツ此ノ如ク已ニ櫃ヲ駄セシ馬ハ百五疋ニシテ
尙ホ準備整ハサル馬十五疋擔夫若干名ナリト雖正
約定日數ニ界限アルヲ以テ已ニ駄シ畢ル馬夫ノ督

丁ハ直ニ發セシト欲セリ於是予ハ清人沉氏其繼父
安寧州雲南府ヲ距ル七十里知州タルヲ以テ之ヲ省視セント
欲シテ雲南ニ到ラントスルモ獨行スルヲ欲セサル
カ故ニ予カ雲南ニ赴クヲ聞テ從ヒ行カント請フ及
ヒ從僕二人ト共ニ先發シ入必君ト王氏ハ後ニ留リ
殘レル役夫ヲ督シテ發スヘシトセリ其馬夫ト擔夫
ヲ視ルニ馬夫ハ粗製ノ裝鐵防水長靴ヲ穿テ擔夫ハ
短靴ノ踵ニ兩尖鈎ヲ裝具シ以テ阪坡中滑リ易キ地
ニ於テ轉跌スルノ患ナカラシメタリ馬夫ハ馬ヲ牽
キ擔夫ハ行李ヲ擔フテ余カ旅亭ニ來ルノ時余モ喫
飯畢リシカ故ニ直ニ發セリ時ニ一月七日ナリ
永寧縣ヲ發シテヨリ若干里間河邊ニ沿ヒ開キタル

大路ヲ行クニ路中皆石ヲ斃ク其河ハ水増漲シテ激流シ其水ハ澄清巖石ニ觸レテ碎ケ雲無クシテ雪降ル之ヨリ路ノ迂曲ニ從ヒ廻轉シテ山坡ニ上レハ雨降リテ雨水斃石上ニ滯留シ馬蹄滑リテ行歩シ難ク或ハ雨水土ヲ蕩シテ路凹凸タリ擔夫ト雖モ意ヲ用ウルニ非サレハ進ムコト能ハス山腹ニ至ルニ及ンテ濃霧北ヨリ南ニ張り瞑々ノ中ヲ行クコト有リ俯シテ山間ヲ臨メハ農家櫛比ス山頂ニ達シ之ヲ降ラントスレハ降路急峻且雨水路中ニ流レテ行歩艱難ナリ二時ノ頃追及ス其擔夫ハ背上ニ櫃ヲ負フカ故ニ爲メニ勞疲シテ行歩自由ナラス於是余其督丁ヲ慰メテ曰ク休憩所ニ到ラハ其擔夫等ノ勞ヲ賞スヘ

シト然ル後之ニ先テ行キ六時ノ頃順境ニ到リシニ貴州ヨリ來ル兵卒既ニ此村中諸家ニ舍レリ故ニ余輩ハ夜ヲ肩シテ普市ニ抵レリ是時馬夫ハ余ニ先テ此處ニ着シ擔夫ハ後ヨリ櫃ヲ負擔シ來リ其亂雜噓フルニ言ナシ此村モ順境ノ如ク兵卒旅客充滿シテ殆ント虛屋ナシ余搜索ニ力ヲ盡シ僅カニ一ノ茅屋ヲ得テ旅裝ヲ解ケリ雖然不潔甚シウシテ殆ント宿スルニ堪ヘス逆旅ノ主人予輩ニ與フルニ唯米薪被布ノミヲ以テスルカ故ニ食スルニ物ナク僅カニ瘦雞ト雞卵ヲ請ヒ求メテ之ヲ割烹シ飯ヲ炊テ晚餐ヲ喫シ穢室ノ隅ニ木臺ヲ置キ木板ヲ其上ニ列シテ古席ヲ布キ蠟布ヲ其上ニ展シテ之ヲ臥床トシ其上ニ

臥シタリ然ルニ蟲蚕集リ來テ爲メニ終夜睡ルヲ能
ハス
夜半從僕及擔夫等俄ニ嘔吐シテ苦メリ於是余臥床
ヲ出テ其因ヲ起ル所以ヲ逆旅主人ニ問ヒシニ荅ヒ
テ曰ク顧フニ擔夫等今日ノ疲勞ヲ醫セント欲シ多
量ノ桐油ヲ加ヘ食セシテ以テ其毒ニ中リシナラン
ト久シカラスシテ嘔吐止ミ常ニ復セリ
八日黎明ヨリ擔夫等大ニ鬨噪ス予ハ昨日ノ亂雜ニ
懲リシカ故ニ今日ハ發程ノ際ニ臨ミ自ラ細心ニ其
準備ヲ監視シテ其運搬順次ヲ定メ各人ニ令シテ其
順次ヲ亂サ、ラシム順次ハ則テ二十匹以内ノ貴州
健馬列ヲ連子テ先行シ他ノ各列之ニ次テ行進スヘ

シトセリ各列ニ先ツ一疋ノ強健ナル牡馬ノ頭ニ大
ナル狐尾ニツラ懸ケテ其節トシ其株額ニハ帽圍標
圈ノ如ク赤色棉布ヲ被纏シ其耳ニ野雞ノ長羽ヲ裝
シテ每歩ニ翩翩スル如クシ其頸圈ヨリ極ト胸帶ニ
連子テ大小ノ數鈴ヲ懸ケ歩スルニ從ヒ音ヲ發シテ
其馬之カ爲メニ勵マサレ高ク足ヲ舉ケテ進ム而シ
テ其足ヲ舉クルニ從ヒ鈴音愈々高キヲ以テ他ノ各
馬モ之カ爲メニ勵マサレテ疾歩セリ其各列ノ兩側
ニ老板上出在リテ各々五馬ヲ管シ不絶馬ニ目ヲ注キ
馬夫ニ懈怠スルコトナカラシム極ニハ黄色棉布ノ
三角旗ヲ樹テ其旗ニ清字ヲ記シテ此貨物ノ雲南總
督ニ屬スルコトヲ知ラシメ傍ラ此一行ノ裝飾ト爲

セリ後列ニハ擔夫兩々班ヲ結ヒ櫃ヲ扛キテ進ミ永
寧縣ヲ出ル時ノ如ク櫃ノ爲メニ疲勞スルコトナク
各々相獎勵シテ行進ス斯ノ如ク列ヲ成シテ隘路ヲ
行進スルコト一時ノ久シキヲ經スシテ谷中ニ出復
タ更ニ山路ニ入ル
細雨霏々トシテ霧ノ如ク西南ノ丘陵ニ通スル路ヲ
取り漸次ニ登行スルニ其路峻峻且泥濘有リテ登り
難ク地ハ凡テ不毛ニシテ恰モ沙漠ノ如シ雲霧常ニ
之ヲ蔽ヒ遠ク望メハ彼此各地ニ茅舍アリテ土地ヲ
開墾シ玉蜀黍蕎麥馬鈴薯ヲ種ヘ其卑低ナル地ニ赤
米ヲ作ルヲ見ル此地ハ玉蜀黍蕎麥馬鈴薯モ生殖シ
難ク特リ赤米ノミ收穫多シト雖極メテ下品ナリ

亭午老板上意ヲ用ヒ草ノ繁生スル水濱ヲ撰ンテ休
憩所トシ貨物ヲ馬ヨリ卸シ馬ヲ放チテ草ヲ喫セシ
メタリ是時馬夫一人飯ヲ炊キ他ノ馬夫ハ馬具ヲ檢
シテ之ヲ修理シ或ハ轉躡ノ爲メニ起シタル馬蹄ノ
傷害ヲ療セリ凡ソ馬夫ハ別ニ換馬ヲ備ヘ老板之ニ
騎シ馬中用ニ堪ヘサル者有ルニ臨ミ其貨物ヲ轉載
スル者トス
馬夫等飯ヲ喫シ畢リ其健歩スル者一人先發シテ次
ノ驛ニ到リ諸人ノ未タ達セサル前ニ於テ預メ馬廐
ヲ借り混雜ヲ起スノ患ナカラシム雖然諸人到着ス
ル後其馬ヲ洗刷スル等ニ時ヲ費シ日暮シテ以テ預
防ノ功無ク多少ノ混雜ヲ起シタリ

此日經過スル山間ノ地ハ高クシテ石炭層其中ニ在
リ其土人一家毎ニ深二十四丈内外ノ坑一道或數道
ヲ穿開シテ石炭ヲ採リ或ハ石炭ノ質上品ニシテ掘
採シ易キ者アルキハ數家連結シテ之ヲ掘採ス其坑
ヲ開クヤ五六十丈ノ深ニ過キス其掘採スル石炭ハ
土人ノ需用ニ供シ或ハ之ヲ永寧縣市場ニ搬輸ス
五時ニ及ンテ五里灘ニ到ルニ先發セシ馬夫余輩ノ
到ルヲ俟テリ此村ハ普市ノ如ク狭小ナル低地ニ在
テ景色荒涼タリ

九日 此日朝ヨリ天曇リテ大ニ雨ヲ下ス余輩大雨
ヲ冒シテ嶮路ヲ上ルニ其路中硯石磨レテ滑ラカナ
リ故ニ屢々脚ヲ失シテ殆ント行歩シ難シ此ノ如ク

難歩シテ上ルコト三時間許ニシテ雲山關山頂ニノ麓在リ
ニ達シ絶壁中ニ開鑿スル路ニ由リテ山中ニ入ル其
路傍ハ深淵アリテ其水深碧山頂ヨリ下ル水其淵ニ
落チテ白花ヲ飛ハシ激響ヲ起ス馬夫等ハ其馬ニ接
シ極メテ行歩ニ心ヲ注キ以テ徐々ニ行進ス行進ス
ルニ從ヒ霧漸々ニ濃厚ト爲リ咫尺ヲ辨スルコト能
ハス懸岸深淵モ皆濃味ノ間ニ在ルヲ以テ却テ恐怖
ノ心ヲ生セス是ヨリ馬ヲ下リ艱歩スルコト二時許
ニシテ山ノ他方ニ移リ路巖石ノ間ニ入り山神ノ廟
前ニ至ル督丁等ハ五里灘ヨリ携へ來リシ雞雞ヲ奠
シ其血ヲ廟中ニ滴ラシ其羽一二ヲ抜キテ廟ニ置キ
其廟僧ニ若干錢ヲ與ヘテ其雞ヲ取り此夜旅亭ニ至

リ之ヲ割烹シテ晚餐ヲ助ケタリ
遠ク前方ヲ眺望スレハ山皆奇形異狀ニシテ峻峻ナ
ラサルカ如シ余輩ノ停立スル山ノ麓ニ回繞スル地
ノ中央ニ赤水河流レテ四川ト貴州ノ兩地ヲ分界シ
其河ノ左岸丘陵上ニ構壘村落ノ壞頽セル址跡ヲ視
ル之ヨリ山坡ヲ降ルニ登山ノ時ニ比スレハ甚々易
ク前ニハ濃霧アリテ路ヲ遮キリシト雖也今ハ日光
射シ來リテ四方ヲ照シ氣候モ亦々漸次ニ温和トナ
ル山腹ニ至ルニ四邊野茶アリテ盛シニ花ヲ開キ路
ノ兩傍處々ニハ山茶花ノ生スルヲ視ル之ヨリ降ル
處ニハ桐橙ヲ植ヘ穀類ヲ種ユ登阪ノ時ハ山景一様
ニシテ倦屈セシト雖也今ハ異景變態極リ無キヲ以

テ大ニ眼ヲ喜ハス前方ニ流ル、赤水河河幅大約ニハ十五間

遞運船ヲ設ケテ人馬ノ通行ニ備フ馬ト貨物ヲ携ヘ
行クコトヲ得サルヲ以テ朝間發程ノ時此船ヲ以テ
通セントスレハ大ニ時ヲ費スヲ以テ四川ヨリ此地
ニ來ル者ハ宵間之ヲ超ヘテ右岸ニ宿シ貴州ヨリ此
處ニ達スル者モ宵間之ヲ過キテ左岸ニ宿スルヲ常
トセリ

此河邊ノ地ハ肥沃ニシテ貴州賊亂前ハ住民多クシ
テ耕耘ヲ務メタリト雖也其賊亂後其住民或ハ賊ノ
爲メニ殺サレ或ハ他國ニ逃走シ其民數大ニ減シ其
地ヲ耕スニ力足ラス自ラ荒蕪ノ地トナレリ
余ノ停宿セシ赤水村ハ賊ノ虜掠ニ逢フコト殊ニ甚

シクシテ其家屋多クハ壊破シ男女悉ク身ニ縊縷ヲ
纏ヒ兒童皆赤裸旅客ヨリ獲ル處ノ利ヲ以テ僅カニ
生命ヲ保チ唯終日爐ヲ擁シテ坐スルノミ其地ヲ耕
ス者少ク地多クハ荒廢シ他日人口増殖スル時ヲ俟
テ耕耘セントスル者ノ如シ余千文法貨四「フ」ラ「ン」五「サ」ンヲ出シテ我八十難難一羽ヲ獲ントスルモ直ニ辨セ
ス百搜シテ後僅カニ之ヲ獲從僕米ヲ買ハント欲ス
ルモ得ス馬夫ノ携へ來ル者ヲ分タンコトヲ乞フニ
至レリ以テ其貧寒ノ寒村タルヲ知ルヘシ
十一日 此日騎シテ貴州ニ入ラントシ旅裝畢ル時
日出テ此寒村ヲ去ルノ期至ルヲ喜ヒ村ヲ發シテヨ
リ山路ニ入り之ヲ登ルニ其阪路進ミ易ク斃石路ヨ

リ脫離シテ却テ行歩ニ便ナリ山上ニ至ルニ濃霧ア
リ午正ニ近ツクニ從カヒ其霧細雨ト爲リ霏ヤトシ
テ降ル嘗テ清人ノ余ニ語りシニ貴州モ亦霧多キ國
ナリト今果シテ其言ノ信ナルヲ知ル山頂ノ平垣ノ
處ニ達スルニ草木繁生シ其左右ヲ瞰ルニ低阜アリ
テ松柏其他ノ樹木叢生シ路中亦草木處々ニ生ス之
ヨリ山ヲ降ルニ路中石ヲ斃キ其山多クハ禿露シ路
其中ヲ蜿蜒シテ降ル其山麓ニ鋏アリテ鋏鏽處々ニ
洩出シ水流及湧泉ニ從ヒ流レ出ツルコトアリ其地
ハ耕地希ニシテ多クハ荒蕪シ路傍ヨリ遠ク離レテ
一二ノ小茅舍ヲ構へ僅カニ蔬菜ヲ種ルヲ見ル午後
五時半ノ頃萬里舖ニ達シ此地ニ停宿ス

十二日十三日 貴州ニ入テヨリ第一ニ至ル可キ城
市ハ畢節縣ニシテ諸物ヲ求メ易ク萬里舖ヲ距ルコ
ト僅カニ四十里ニ過サルヲ以テ此縣ニ赴カントシ
萬里舖ヲ發シ進ンテ巴澤坪ヲ過クル時苗子ノ男女
余輩ノ傍ヲ過キテ小徑ニ入り其村ニ歸ルヲ見ル是
レ余カ苗子ヲ見ル始ナリ其男ハ外衫ノ類ヲ装シテ
長キ膝ヲ過キス腰帶ヲ以テ之ヲ結緊シ頭ハ布ヲ以
テ纏包シ其布色鮮明或ハ尖帽ヲ載キ其長髮ヲ項ニ
下ン之ヲ結束ス女ハ其顔貌醜カラスシテ愛ヲ含ミ
銀ノ大環ヲ兩耳ニ懸ケ短衫ト褲ヲ装シテ頭ハ畧男
子ノ如シ其背ニ小兒ヲ負ヒ帶ヲ以テ之ヲ緊束ス男
女共ニ襪ヲ用ヒスシテ藁履ヲ穿チ其行步健捷其身

體短小ナリト雖此狀貌強壯ナリ
此地ニ來ルマテ土地總テ不毛ノ荒野ナリト雖此之
ヨリ少シク草木生シテ綠葉眼ヲ嗜ハス一市街ニ近
ツクニ人口稍多クシテ業ヲ務ムルノ狀有リ其地ニ
小河流通シテ茶園多ク耕耘善ク至レリ家畜ノ人獸
多ク土民間隙有レハ柳條ヲ以テ諸器ヲ製造シ之ヲ
他國ニ鬻ク或ハ木炭ヲ燒キ石炭ヲ採リ傍ヲ石炭層
ハ坑底ニ疊積シ其側面ニ孔ヲ穿テ土ヲ以テ上方ヲ
蔽ヒ木炭ヲ製スルカ如クシテ枯石炭ヲ製ス
突兀タル秃山ノ間ヲ行進シテ尖峰ニ登リ四方ヲ瞰
ルニ雲霧朦朧タリ僅カニ城壁ヲ見ルノミ其壁下ニ
小河有リ山間ヲ流レ丘陵ヲ繞リテ遠ク山ニ入り復

タ沃野ノ中央ニ流出ス其尖峰ノ頂巔ニ一ノ記念碑
アリ一千八百六十七年同治六年梁山ニ住ム蠻子族苗子
族ト連合シテ鞫弓青畢節縣ノ南ニ據リ畢節縣ヲ脅カ
サントスル時雲南總督岑毓英之ヲ討シテ鞫弓青ノ
地ヲ復セリ之ニ由テ碑ヲ立テ其功績ヲ旌ハス
之ヨリ歩ヲ進メテ畢節縣ニ至リ停宿ス畢節縣ハ丘
陵ノ間ニ在テ四面ノ地耕種ニ適セサルカ如ク其景
色モ亦變態ナシ人口少ナシト雖モ善ク業ヲ務メ廣
西四川廣東ノ商賈此地ニ來テ棉布毛布鹽及其他ノ
諸品ヲ交易シ土人ハ唯工業ヲ以テ生計ヲ營ミ敢テ
他ヲ顧ミス
畢節縣ハ淫賣ノ風盛ニシテ四隣ノ各省皆之ヲ賤メ

リ先是叛賊起テヨリ此地大ニ衰微シ之カ爲メニ人
民其女ヲ淫ヲ鬻カシメ以テ生計ヲ營ム爾後此惡習
人民ニ慣染シ漸次ニ此惡習全地ニ傳播シ世人此地
ヲ稱シテ淫地ト云フニ至レリ余カ親友ナル沉氏ノ
語ル所ヲ聞クニ此地賣淫大ニ行ハレ甚シキニ至テ
ハ女子有ル者ハ其女ヲ以テ大利ヲ獲ント欲シ其家
ノ貧シキヲ忘レ其費ノ大ナルヲ省ミス以テ女ノ心
ヲ慰メ其淫ヲ鬻クノ心ヲ獎勵シ其女ヲ媒婆ノ家ニ
托シ其親自ヲ巧言ヲ以テ遊客ヲ誘引スル者アリ清
國官吏或旅客此家ニ遊フコト屢々之アリ沉氏ハ此
地ノ風俗ヲ諳シ金ヲ費スコト僅カニシテ遊樂セン
トシ此家ニ遊ヒシト雖モ終ニ其費ノ支ユ可ラサル

ヲ覺リ且假令其事情ヲ詳悉スルモ遂ニ其吞噬ヲ免
レサルヲ曉レリト云フ

畢節縣ヲ距ル遠カラス善ク耕耘ノ至レル丘陵アリ
苗子其丘陵中ニ居住ス其苗子ハ蕎麥玉蜀黍馬鈴薯
及其他ノ果物ヲ食料トシ稻ヲ種テ米ヲ収ルト雖
其量少クシテ食料ニ充ツルニ足ラス故ニ之ヲ他ニ
鬻キ其金ヲ以テ他ノ日用品ヲ買求ス其性質強健事
ニ堪ルヲ以テ山林ノ培栽ノ如キ用意善ク至リ樹木
繁殖シ其地ニ用ユル木材ハ悉ク之ヨリ出ス此地ニ
含銀鉛鑛アルヲ以テ之ヲ掘採スルコトヲ務ムト雖
其銀ノ量少ナク且盜ニ逢フノ恐アルヲ以テ廣ク此
業ニ從事スルニ至ラス

十三日畢節縣ヲ發シテ行クコト數時間高山鋪ト稱
スル村ニ至テ停宿ス此村ハ山上ニ在テ其四邊ノ地
盛ンニ石炭ヲ掘採セリ

十四日天氣陰霽ナルカ爲メニ發出スルコト晚ク道
路平易ニシテ或ハ丘陵ヲ登ルト雖其疲勞少ナク丘
陵ハ圓峯ヲ爲シテ其頂高ク聳ヘ樹木陵上ニ密生シ
テ頂ニ至ル苗子或ハ清民其低地ヲ耕シ路傍ニ茅舍
ヲ造リテ耕耘收穫ノ用ニ備ヘ其本家ハ丘上ニ造リ
柵障ヲ植テ盜賊ヲ防キ且豹ノ入ルヲ拒テ家畜ヲ失
フノ患ナカラシム此地野禽山獸多シ余カ同行人皆
路中ニ於テ野雞鵝鹿ノ類ヲ獵セリ抑啓行以來此ノ
如キ物ヲ獲ルコト能ハサリシヲ以テ大ニ喜ヒ旅亭

ニ至リ之ヲ料理シテ晚餐ノ具トセリ
十五日 朝間寒天少シク曇リテ霧無シ酒納谿村ヲ
發ス此村ハ雲南ニ至ル道路ノ右傍ニ在テ人口多カ
ラス人家壞頽スル者少シ蓋賊亂ノ災ヲ蒙ムルコト
薄キナリ人民性温和ニシテ惠ヲ好ミ善ク諸業ヲ務
ム而シテ其家屋半ハ此路ヲ往來スル諸馬ヲ置クニ
設ク村中丘陵連リ陵間ニ米麥ノ類在リテ風景愛ス
可シ

各驛ノ間ハ短シ山ニ連ナル地ハ凹凸高低有リト雖
凡道路ハ總テ行歩ニ便ナリ西面ノ阪路ヲ下ルニ到
ル處家屋多クハ破壞セリ賊難ニ遭ヒシ者ハ廟祠石
壁下ニ居ヲ定メ小茅舍ヲ造テ寒ヲ防ケリ之ヨリ復

タ羊腸タル路ヲ下リテ十一時ノ頃山間ヲ流ル、小
河ニ達ス此河ハ金沙江中ニ入ル小流ニシテ三弧石
橋ヲ架シ其橋大約三十五間アリテ此路中築造ノ最
ナル者ト謂フ可シ之ヨリ行進スルニ從ヒ鑛層倍々
多クシテ酸化鉄ノ如キハ處々ニ現出シ道路ヲ距ル
遠カラスシテ含銀鉛鑛アリテ昔時ハ多ク鑛ヲ出セ
シト雖凡近時ニ至リ減少スルヲ以テ之ヲ廢棄セリ
ト四時ノ頃平山舖ニ達ス
十六日 此日高原上ヲ行クニ其路高低波濤ノ如ク
寒氣凜烈霧下リ氷合シ草木土石ニハ薄氷凝結シ樹
枝ニハ三四寸ノ氷筭懸レリ予ハ寒ヲ防ク爲メ毛衣
ヲ被ルト雖凡寒甚シウシテ騎行スルコト能ハス路

ハ泥濘滑リ易クシテ歩シ難ク進ムニ從ヒ寒氣少シ
ク減スルヲ覺ヘ蜿蜒タル水流ニ沿行シテ平野ニ入
リ之ヲ通過シテ茅舍若干宇アル小村ニ抵リ停宿ス
此村ヲ漆家灣ト云フ其平野ニハ多少ノ村アリテ土
地廣大沃饒ナリ余輩永寧ヲ出テヨリ未タ此野ノ如
キ廣大沃饒ノ地ヲ見ス先是一二日前雲南總督ノ代
理管六萬兩四十五萬ノ銀ヲ以テ雲南ニ歸ルノ時白
晝此地ヲ過クルニ一群ノ強盜出來テ其代理管ヲ殺
シ其銀ヲ馱スル馬ヲ牽キテ跡ヲ匿セリ是時此地ノ
住民之ヲ觀ルト雖其盜ニ怖レテ如何トモスルコ
トヲ得ス手ヲ空クシテ唯傍觀セシノミ是ヨリ此地
ノ官吏之ヲ追跡シテ捕ヘントスレモ余輩此地ヲ過

ル時ニ至ル迄未タ之ヲ捕フルコト能ハスト云ヘリ
是ニ由テ余輩此地ニ停宿スル間馬夫等ハ賊ノ來ラ
ンコトヲ恐レ之カ備ヲ爲セリ
此地ハ平野ナリト雖山間ニ在ルヲ以テ寒氣凜烈
大氣濕ヲ帶ヒテ雨霧多シ然ルニ此地ハ石炭多クシ
テ地上ニ浮出シ土人唯鋤鋤ノ一二撃ヲ以テ之ヲ採
リ日々ノ需用ニ供シテ土人夜間ハ盛シニ焚燒シ以
テ寒氣ヲ防ク旅客モ亦晝間行旅苦寒ノ勞ヲ休メ衣
ノ露ヘルヲ乾カスコトヲ得寒厄斯ノ如クナレハ又
防寒ノ資ニ富メリ天幸ト謂フ可シ
十七日 漆家灣ヲ發シ路狹峽中ニ入ルニ巖石路中
ニ横ハリテ過クルコト難シ蓋シ其巖石ハ地震ニ由

テ路傍ノ巨巖碎ケ、來リシ者ナリト小川山麓絶壁間
ニ緩流シ其絶壁ハ恰モ人工ヲ以テ剝削スルカ如ク
其水ハ深坑中ニ落テテ暴響ヲ發シ其流ル、所ヲ見
ルコト能ハス
之ヨリ山坡ヲ登リ半腹ニ至ル頃ニ霰雨降テ登リ難
ク余ハ装鐵靴ヲ穿ツト雖モ殆ント行ク能ハス其高
原ニ達セントスルモ路傍ニ擔夫ノ死屍ヲ見ル蓋シ
寒ニ犯サレテ凍死セシ者ナラン山中ニハ櫛櫟其他
ノ樹木繁生シ枯樹朽木殊ニ多シ蓋シ此地ハ石炭ニ
富ミ其質僅カニ硫黄ヲ含ムト雖モ烟ヲ發スルコト
少ナク之ヲ採ルニ少シク勞スト雖モ燃ヘ易キヲ以
テ木ヲ用ウル者少キ故ナリ

嶮峻ノ阪路ヲ降り山麓ニ至ルニ小川有リ其川底ハ
悉ク火石ナリ其左方ノ低地ニ一村アリ之ヲ大橋村
一名新橋ト云フ其風景寥々僅カニ數屋ノ人家アルノミ
其近傍ニ含銀鉛鑛有リ金鑛モ亦其中ニ在リ右方ニ
開ク四坑ハ叛賊ノ虜掠ヲ經テヨリ掘工足ラサルヲ
以テ其掘採ヲ廢止シ唯其土ヲ洗條シテ金銀ヲ採リ
之ヲ距ル五十間許ニ在ル水流ノ傍ニ爐ヲ設ケ其水
力ヲ藉テ運轉シ以テ金銀鑛ヲ熔煉ス此採鑛ハ僅少
ナルカ如クナリト雖モ其獲ル所ノ利大ナリ其鉛鑛
ハ之ヲ熔煉シテ酸化鉛ト爲シ或ハ鑄鉛ト爲シ之ヲ
永寧ニ輸送セリ
暫時停駐シ人馬休憩シテ後進シテ横水塘ニ至レリ

是時日已ニ西山ニ沉メリ
横水塘村ハ道ノ兩傍ニ在テ家屋七十餘戸ニ過キス
其旅亭ハ是迄停宿セシ處ノ者ニ比スルニ寬廣ニシ
テ清潔ナリ其人民ハ大概工業ニ勵ミテ善ク生計ヲ
營ムカ如シ是ニ由テ此地ノ城市ニ近キヲ知ル
十八日 横水塘ヲ發シテ進ムニ道路高低甚シクシ
テ峻惡ナリ路邊ノ地彼此ニ村落アリ其家屋多クハ
茅屋ニシテ景色頗ル幽微ナリ貨物ヲ運輸スル擔夫
馬夫余輩ト蹉過シ余輩ノ馬夫等ト相語り其業ノ狀
況ヲ問答スルヲ視ル
此地ニ至リ地勢變シテ前ニハ噴火山ノ餘跡ナル尖
峰アリト雖此ニハ諸山平列シ色紋アル花崗石大

理石山上ニ在ルヲ見ル
余輩ノ發スル時天氣陰靄ナリシカ漸々ニ雲開散シ
テ日光照シ來リ高原ニ登レハ瀦水アリテ其近傍ヲ
通過スル牛馬ノ飲水場トナル遙カニ威寧湖ヲ望メ
ハ渺々タル碧水上無數ノ小船白帆ヲ張テ縱横ニ往
來シ威寧近傍ニ耕地有リテ山ニ連ナリ路傍ノ草野
尙ホ綠色アリテ牧人群羊ヲ其中ニ牧セリ威寧ノ近
傍ニ峙立スル丘陵ヲ望メハ童子アリ牛ニ騎シ徐行
シテ陵ヲ下レリ午後三時威寧州ニ達セリ
威寧州ハ永寧以後ノ最高地ニシテ永寧ヲ距ルコト
十一日程永寧ヨリ雲南府ニ抵ル路程ノ中央ナリ
威寧州城ハ低キ阜上ニ在テ其四方ノ地ヲ瞰視ス其

四方ノ地ハ高クシテ温度ノ適宜ナルヨリ悉ク耕耘ニ適シ其城壘ハ阜ノ灣曲スルニ從フテ轉廻シ西方ニ至リ湖水ノ中ニ下レリ城内ハ靜閑ニシテ家屋總テ同シク土人ノ外各省ノ人民輻湊シ又山間ノ苗子其他ノ夷族來リ住シテ生計ヲ營ム其外郭ハ狹小ニシテ水住人民河中舟筏中ニ住ム者ヲ云フノ内夜間城内ニ出入スルノ業アル者此ニ移住ス城内ニ高處アリ知州ノ衙門ヲ此ニ築設セリ

威寧州ハ雲南ト貴州ノ接スル疆界ノ地ニ在ルヲ以テ鎮臺此ニ駐在シテ其地方ノ兵隊ヲ管轄シ傍ヲ國疆ヲ監守ス湖ハ北西方百四十丁ノ間ニ亘リ數村其湖邊ニ在リ

テ水ヲ此湖ニ資ル

此地ハ貿易盛ナラス其地ニ産スル鑛物ノ外他ニ輸出スル者ナシ其人民ノ命脉ハ其地ニ産スル穀類ニ在リトス木綿毛布其他ノ諸物ハ清國産ト歐洲産ヲ問ハス皆四川及其他ノ地ヨリ取ル一千八百七十年同治前叛賊四川ノ鹽井ヲ奪領セシニ同年官軍賊ヲ討シテ其井ヲ復セリ是時ヨリシテ其鹽ハ遠ク雲南ニ輸送セス皆威寧州ニ送ルトトセリ是ヨリ後余雲南府ニ到着スル日賊黨威寧州及其四隣ノ地ヲ侵シ其地ノ民家ヲ悉ク搶掠シテ去レリト是時都統一入賊ノ爲メニ死セリト云フ

十九日 威寧州ノ外郭ヲ發シテ南西ニ至レハ地ノ

低下スル處アリ二三年以來湖水濫入シ嘗テ池上ニ架セル小石橋モ殆ント水中ニ沉ミ初メ地上ニ在リシ樹木モ今ハ其下枝水中ニ入り湖邊ノ良地モ亦水底ニ入ル者多ク民家頽廢シテ民業ヲ失ヘリ余輩ハ小艇ニ乗シテ湖ノ最狹キ處ヲ渡リ馬夫等ハ上方湖邊ヲ繞廻セリ凡テ地ハ高低多シト雖モ善ク開ケテ景色頗ル佳ナリ丘陵ハ小松簇生シテ叢林ヲ爲シ小村所々ニ在リ行クニ幾許モ無クシテ一村ニ至ル之ヲ青斗鋪ト云フ

二十日二十一日 二十一日青斗鋪ヲ發シテ山間ニ入ル其山ハ尖峰群ヲ爲シテ噴火山ノ如シ其山ヲ降レハ路傍處ヤニ小村アリ村民砂土ヲ用テ陶器ヲ造

レリ其色ハ黑鉛炭化鍊ニシテ即チ石筆ヲ造ル者ノ如ク其質ハ堅牢ナ

リ午正朝霧始メテ消散シ一河有リ山間ヲ流ル是レ雲貴ノ疆界ニ流通スル青河ニシテ其河道ハ大約二十五間餘アリト云フ此河ノ左岸ニ可渡橋村アリ雲南管轄ニ屬ス村中商店無ク巡檢此ニ住シテ國疆ヲ巡察ス此河ノ下流ニ赤水河ノ如ク小船ヲ設ケテ行人ノ通過ニ便スル者有リ余雲南ノ地ニ入ル時ヨリ天氣晴朗ニシテ雲ヲ見ス微風徐ニ來リ日青野ヲ照ス沒溝山ノ阪路ヲ登ルニ其路歩シ易クシテ疲勞セシ草其中ニ生シテ殆ント路ナキニ至ルト雖モ之レカ爲メニ余輩ノ馬ハ却テ脚ヲ失スルコトナク速ニ

行進シ高原ニ達シテ後更ニ梁山ノ麓ヲ繞リ大路ニ
出ツレハ地勢高低アリテ歩シ難ク徇塘ニ抵リテ投
宿ス梁山ノ峯ハ北ヨリ南東ニ連リテ雲際ニ聳ヘ今
日經過スル各地絶テ景色ノ見ル可キ者ナクシテ唯
天變地變ノ跡ヲ見ルノミ到ル處砂石層アリテ其質
碎ケ易ク其色赤紫緑ノ異ナルアリ地下ニハ亦鑛層
アリ而シテ銅鑛多キニ居ル
徇塘ハ丘麓ノ傍ニ在ル一村ニシテ其地兩川ニ夾マ
レ圓狀ヲ爲ス其住民多クハ回々教徒ニシテ官吏其
中ニ住シ鑛山ヲ監督シ傍ヲ其地ノ裁判ヲ掌ル此兩
川ハ此地ヲ周廻スル高山ヨリ發シテ東方ニ至リ合
シテ一ト爲ル

一山梁山ヨリ岐分シ回々教徒夷人清人相混シテ其
岐山中ニ住ミ一村落ヲ爲ス然リト雖モ其住民中賊
徒希ニシテ賊亂十七年間此地ハ常ニ平穩ナリシト
云フ

此地採鑛ノ業盛ンニシテ其鑛坑ヨリ灰色銅鑛及酸
化銅鑛ヲ出ス其酸化銅鑛ハ出ツルコト殊ニ多シト
雖モ精煉スル後ハ其量減少スルヲ以テ其實ハ灰色
銅鑛ヨリ少ナシ其他含硫鑛層二處ニ在テ往時ハ之
ヲ掘採セシト雖モ今ハ殆ント之ヲ廢スルニ至レリ
二十一日徇塘ニ逗留セリ
二十二日徇塘ヲ發シ川流ニ沿ヒ北西ニ進ンテ其
川源ニ至リ之ヨリ山路ヲ登テ高原ニ達スレハ宣威

州ノ野其前ニ在ルヲ瞰ル既ニシテ其野ニ降リ其地
 ナ視ルニ村家多クハ土ヲ以テ壁ト爲シ茅ヲ以テ蓋
 ヲ葺キ低小ニシテ湖桃榛樹ノ中ニ隠ル丘陵ノ連ナ
 ル地ハ玉蜀黍及馬鈴薯ヲ種植シ亦タ地中ヨリ湧出
 スル泉水ヲ田ニ灌キテ其中ニ稻ヲ種ユ此地ニ至リ
 地勢土質著シク變シテ田間多ク石炭ヲ出シ亦タ黃
 花ト稱スル一種ノ礦物ヲ出セリ其石炭ハ貴州ヨリ
 出ル者ト質ヲ異ニシテ脂質多ク烟ヲ發スルコト多シ
 故ニ士人之ヲ用ウルコト少ナシ其黃花ハ天然鉛鹽
 ノ類ニシテ陶器ノ色彩ニ用ウヘキヲ以テ之ヲ驪馬
 ニ駄シテ四川ニ輸送シ亦タ水路ニ由リ江西省中景
 德鎮ノ官立製造場ニ送り之ヲ製シテ陶器顔料ト爲ス

進ムニ從ヒ耕種次第ニ盛ナリ余開港場ヲ去テヨリ
 牛車ヲ見サリシカ今始メテ之ヲ見タリ其車ハ製粗
 ニシテ其輪ハ輜ヲ以テシ木軸ヲ中心ニ貫キテ兩輪
 ヲ連子其久シク使用セシ者ハ其形ヲ損セリ
 此時馬夫等ハ其背ニ負フ三弦子ヲ取リテ之ヲ携ヘ
 其馬ニ懸ル鈴ノ響音ニ和シテ不絶之ヲ彈ス錢ヲ與
 フル僅カニ五六百文ヲ出シテ行李ヲ運搬セシメ傍
 ヲ各快樂ヲ聽キ以テ路中ノ積鬱ヲ遣レリ亦廉ナル
 哉凡テ雲南人ハ西班牙人ノ如ク樂器ヲ愛スルノ癖
 アルヲ以テ馬夫車夫ノ如キモ常ニ三弦子ヲ背ニ負
 フ者多シ余カ馬夫モ雲南人ナルヲ以テ此癖アリト
 雖貴州ノ地ヲ通行スル間ハ降雨嚴寒之ヲ弄スル

コト能ハサリシニ此地ニ至テ始メテ之ヲ彈シ頗ル得意ノ色アリ

進ンテ宣威州ニ達シ其州城ヲ視ルニ曠野梁山ヨリ出南東ニ下ルレテノ中央ニ在テ回匪ノ侵入セシ時ヨリ人

民土壘ヲ築キテ其内城ト外郭ヲ圍繞セリ此城ハ叛賊ノ巢窟ヲ距ル遠シト雖匪之カ爲メニ大ニ侵掠セ

ラレタリ其人民ハ温和ニシテ人ヲ愛スル心アリ賊亂ノ際其近隣各地ニ賊ノ侵入スルニ當リ恐レテ四

方ニ散シ荒涼タル無人ノ郷ト爲リシト雖匪四川ノ地ヨリ人民ノ移住スル者多クシテ其人口故ニ復セ

リ

二十三日 宣威州ヲ發シ平野ヲ行クニ其路平垣ニ

シテ廣ク石ヲ斃カス近傍ニ高山ナシ平野ヲ過クレ

ハ地ニ高低アリ時ニ天氣快晴涼風北東ヨリ吹來テ日照スモ熱ヲ覺ヘス此地ニ來レハ復タ車ヲ見ス馬

夫ノ言フヲ聞クニ炎方ニ抵ラハ復ヒ車ヲ見ル可シト之ヨリ沿道ノ地或ハ家屋壞頽シテ唯墻垣ノ餘坵

存シ橋ノ殘桁有ルノミ是レ村落ノ在リシ處ナリ或ハ廟樓傾仆シ其近傍ノ家屋破壊シテ僅ニ礎石ヲ存

シ唯舊ノ如ク存スル者ハ官ヨリ設ケテ行馬ノ飲水ニ便スル石筧ノミ

丘陵ニ上リ平野ヲ眺望スレハ東方ヨリ南方ニ小河流レテ他河ニ合シ其兩河相集リテ廣東河脉ノ一ト

爲ル其丘陵ヲ下リ平野ヲ行キ中央ニ至レハ一市街

有リ炎方ト云フ

炎方ハ清國各城ノ如ク壘壁ヲ築設シ汎官ト稱スル
武官在テ此地ヲ監視ス是以テ余ハ之ヲ城ナリト思
シニ其後清國縉紳ノ語ルヲ聞キテ城ニ非ラサルコ
トヲ知レリ蓋シ其壘壁ヲ築設セシ所以ハ嘗テ清國
ノ興ル時此地ニ壘壁ヲ設テ防禦ノ用ト爲シ存シテ
今ニ至レル者ト見エタリ此地一二年以來賊ノ占領
スル處トナリ官兵討テ之ヲ復セリ故ニ家屋ハ之カ
爲メニ壞頽殆ント盡ク其存スル者ト雖モ多クハ傾
斜シ其屋蓋ハ剝落シテ骨ヲ露ハシ其壘牆ハ彈丸ノ
爲メニ壞崩シ或ハ火燄ニ觸レテ赤色トナリ其慘狀
視ルニ忍ヒサル者有リ其人戸減少シテ其衰替憐ム

ヘシト雖モ民皆大ニ其業ヲ務メ復ヒ昔日ノ盛ヲ復
セントスルノ勢アリ其地固ヨリ五穀ニ適スト雖モ
人口足ラサルヲ以テ耕種盛ナラス平野中ニ散在ス
ル小村ハ唯殘礎廢垣ヲ見ルノミニシテ田野ハ大概
荒蕪ニ屬セリ

此地ノ人民ハ勇壯ニシテ驕傲ナリ故ニ壯年ノ時武
職ニ就クヲ好ミ多クハ編シテ行伍ノ間ニ在リ其久
シク戰亂已マス軍ニ在ルヲ長キヲ以テ自ラ懶惰放
恣ノ風ニ染ミ昔日ノ勇壯事ヲ務ムルノ美風ヲ失ヒ
阿片ヲ嗅キ強濃ノ飲液ヲ飲ムカ如キ惡習ニ陥リ故
郷ニ歸ルヲ忘レテ他國ニ迷遊ス是レ人口ノ減シテ
沃地ヲ耕スニ人ヲ缺クル所以ノ因テ原ヒスル處ナ

リ
炎方ヲ發シテ南西ニ進ムニ從ヒ平野狹小トナリテ
丘陵前方ニ横ハル其丘陵ヲ廻繞シ他ノ丘陵ニ登リ
テ陵外ヲ望メハ濶大ナル谷アリ其中央ニ人家ノ群
聚スル處ハ南陽鋪ナリ其丘陵ヲ降り更ニ進ンテ南
陽鋪ニ至リ停宿セリ
南陽鋪ノ人民ハ叛賊ノ侵掠スル際ニ當リ之ニ抗抵
セントセシカ故ニ賊家屋ヲ毀壞シ諸物ヲ奪掠セリ
人民其居ヲ安セス散シテ四方ニ轉移シ後靜定スル
ヲ俟テ歸リ來リ茅廬ヲ結ヒテ之ニ住セリ之ヨリ數
歩ヲ隔テ、一小池アリ人民其水ヲ資リ其田野ニ灌
漑セリ

此地ヨリ北西方二日程ヲ距ル處ニ硫化鉛酸化銅綠
砒ノ鑛層アリ往時ハ之ヲ掘採シテ良品ヲ得シト雖
凡賊亂起リシ以來絶テ之ヲ掘採スル者ナシ
二十四日 南陽鋪ヲ發シテ雲南府ノ地方ニ行キ近
ツクニ從ヒ愈々氣候温和ニシテ天氣清明佳景ノ愛
スヘキナレト雖凡道路平夷ニシテ四川貴州ノ地ヲ
經過セシ時ノ艱苦ヲ忘レタリ行クコト數時ニシテ
史家村ニ至ル此村往時ハ繁盛ノ地ナリシト雖凡今
日ハ衰微レ唯家屋山間ニ稀疏タルノミ山間ニ石炭
アリテ之ヲ露益州ニ輸送スル車ノ往復スル有リ宜
威州ヲ出テ、ヨリ此地ニ至リ始メテ石炭ヲ見タリ
此村ヲ過キテ露益州ニ至リ投宿ス此地ハ史家村ヲ

距ルコト半日程ナリ

二十五日 此日ハ霽益州ニ逗留ス此地ヲ廻覽スルニ平野廣大ニシテ其地肥沃ナル此行ニ於テ未タ嘗テ見サル所ナリ然レモ同シク賊ノ侵掠ニ罹リ家屋多クハ壞頽シ人民過半離散シテ地廣ク人稀ニシテ人ヲシテ悽愴タラシム

霽益州ハ此野ノ北西高地上ニ在テ地方形ヲ爲シ遙カニ之ヲ望メハ廟アリ阜上ニ峙立シ樹木其阜ニ叢生シテ綠色愛ス可シ又炊烟數縷升ルヲ見ル之ニ由テ人口多クシテ生業ノ盛ナルヲ思ヒシニ近ツクニ及ヒ果シテ然リ州城ノ周圍ハ壘障ヲ築キテ處々ニ看樓ヲ設ケ其看樓間壘障上ニ凹凸牆ヲ磚造シ其障

中ニ箭眼ヲ開キ東西兩門ノミテ開キテ往來ニ便ス此地ハ貿易ノ要地ニ非ラス知州ノ居アリテ州城及其地方ヲ管轄ス

此地ハ曲靖府ノ統轄ニ屬ス曲靖府ハ霽益州ノ南方三十里ヲ距ル沃地中山背ニ在テ雲南西北部ノ首城タリ一千八百六十五年同治四年賊魁馬林升之ヲ畧取シ府臺馬如龍之ヲ討復シテ後之ヲ總督ノ直轄ニ歸セリ從是以來此地ニ住スル回々教徒清民夷人裸々等ハ互ニ相親和セリ

曲靖府ノ南方ト西方四十五里間ノ地ニハ硫化亞鉛銻含銀硫化鉛ノ鑛層アリテ往時ハ之ヲ掘採セシト雖モ叛賊ノ起ル時ヨリ其掘採ヲ止ム其後此地安靜

ニ歸シテヨリ硫化亞鉛ノ鑛層ノミヲ掘採ス
二十六日 霑益州ヲ發シテ樹木ノ密生スル丘麓ニ
登ル其丘麓ノ田疇往々稻ノ枯ル、者アリ蓋シ二三
年以來傳染病流行シテ農人其田ヲ棄テ、他方ニ逃
避スルヲ以テナリ此病ハ瘍疫ノ類ニシテ五月ニ發
シ各地ニ傳播シ十一月ニ及ンテ終ル其病ノ發スル
ヤ始メ地中ニ伏スル鼠類地中ノ惡氣ニ感觸シテ此
病ヲ起シ地中ヨリ出テ、人家ニ入り直ニ旋轉シテ
斃レ牛羊之ニ感シ日ナラスシテ更ニ人ニ感ス此病
ニ感スル者ハ初メ大熱ヲ發シ若干時ノ後臂下鼠蹊
頸ニ赤色ノ腫瘍ヲ發シ熱モ亦從テ増加シ腫瘍漸次
ニ腫脹シ第二日ニ至テ其腫停止シテ膨脹スルコト

ナシ是時ニ至リ初硬實ナル腫瘍變シテ柔軟ト爲リ
熱氣依然トシテ滅セサル者ハ惡性ニシテ多分不治
ノ症トス若シ是時熱減シテ腫瘍柔軟トナラサル者
ハ幸ニ治スル者有リト雖此ノ如キ者ハ甚々希ナ
リ清國醫ハ其腫瘍ヲ切開シテ治ヲ施シ危篤ノ際ニ
臨ミテハ多量ノ麝香ヲ用ユルト雖此之ニ由テ回復
スル者極メテ稀ナリ此病ハ初平野ニ行ハレ後山地
ニ播延シ其人民ヲ斃スヲ屢ヤナルカ故ニ城市ニ近
キ山間ノ人民大ニ之ヲ懼ル此病ノ流行間ハ人民其
家内ニ火ヲ燃シテ室内ヲ清潔ニシ豕肉ヲ食スルコ
トヲ止ム此書ニ附スル圖中ニ一千八百七十一二三
ノ三年間 同治十三年ニ流行セシキ其傳播セシ地方ノ

線ヲ示メス

之ヨリ更ニ前進スレハ路中商貨ヲ車ニ載セ陶器ヲ
搬輸シテ至ル者トニヤチヤ蹉過スルコト間斷ナシ樹木荆棘
蔓艸谷中壞屋ノ間ニ茂生シ嘗テ耕耘セシ田園ハ野
草生シテ針ヲ立ツルカ如シ唯旅客ノ通行スル路ノ
ニ草ヲ生セス昔日田疇ニ灌溉セシ泉流モ其流道ヲ
變シ亂後人ノ住スルナク風景荒涼タリ行クコト若
干時ニシテ一ノ高原ニ達セリ其最端ニ至レハ一州
城アリ馬龍州ト云フ

二十七日 此日馬龍州ニ駐留ス此州城西ハ山ニ接
シ北東南ハ高峯連立シテ其高原ヲ繞レリ其城外ヲ
見レハ壘障上ノ看樓ニ風鐘ヲ懸ケ風ニ從フテ動鳴

シ毫モ損破ヲ受クル處ナク其壘障モ壞頽スル處ナ
シ唯歲月ヲ經ルカ爲メニ黑色ヲ帶フルノミ於是以
爲ラク雲南ハ數年來賊亂ノ災ヲ蒙リシト雖モ特リ
此城ノミ免レタリト既ニシテ城内ニ至レハ家屋半
ハ壞崩シテ知州ノ衙門ト雖モ免レス嘗テ城中ニ在
リシ商賈及職工ハ郭外ノ南北兩街ニ出テ、寒窶ノ
市舗ヲ開キ旅客ノ通行ニ頼リテ僅カニ生計ヲ營メ
リ是ニ於テ始メテ知ル此地モ亦タ免レサリシヲ此
地ニ産スル者多カラスト雖モ州城管轄内ノ地ト交
易スルニ足リ每週日ヲ定メテ市場ヲ開キ交易ス綿
布羅紗毛布ノ如キハ曲靖府ヨリ此ニ輸送シ鹽及ヒ
他ノ物品ハ雲南府ヨリ此ニ搬致ス然モ人口稀疏ニ

シテ風俗野鄙山中ノ人ニ異ナラス或ハ北方ヨリ來ル黑夷アリ苗子モ亦其中ニ雜ハレリト雖其數極メテ少ナシ

二十八日 馬龍州ヲ發シテ小河北方ヨリ出テ南流スヲ渡レハ果

樹丘陵ニ列生シ氣候温暖ナルヲ以テ草木繁生スト

雖其嘗テ斬伐セシ森林ハ唯矮樹荆棘ヲ生スルノミ

先是一時逃避セシ山間ノ農民舊地ニ歸ルト雖其地

礮塙ナルヲ以テ居住ニ堪ヘス多クハ平野ニ出テ逃

避シテ未タ歸ラサル者ノ舊窩ニ住シ平野肥腹ノ地

ヲ耕スト云フ此日行程十里ニシテ易龍村ニ至リ宿

ス 易龍村ハ丘陵上ニ在テ地肥沃ナリ然其賊ノ槍掠ニ

罹リ唯回々教徒ノ家屋一戸清國士官ノ旅營タリシ

ヲ以テ存シテ行旅ノ旅館ト爲レリ其災ニ罹リシ家

ハ將ニ初ニ復セントスル勢ナリ

二十九日 易龍村ヲ發シ綏阪ヲ下リ谷中ニ入ル谷

間ニ住スル民ハ其業ニ就ケルカ如シ其壞頽セル屋

壁ニ茅蓋ヲ蔽ヒ鱗次シテ遠地ニ連ナレリ正午樹木

蒼鬱タル山間ニ休憩シ其山頂ニ登リ眺望スレハ楊

林ノ河北東ニ流ル是ヨリ地雲南府ニ屬シ已ニ府ニ

近キカ故ニ各村ノ家屋多クハ故ニ復シ山間ノ地モ

耕種到ラサル處ナシ將ニ平野ニ出ントシ河岸ニ沿

ヒ行クニ一ノ水車有リ蓋シ賊此地ヲ侵掠セシ際偶

々其災ヲ免レシ者ナルヘシ凡ソ清人ハ何物ニ拘ラ

ス有用ノ器ハ之ヲ措カス必ス用ウルノ心アリト雖
凡特リ此車ヲ用井サルハ其製工ノ古雅ナルヲ貴ン
テ舊ノ如ク存セシムルナルヘシ
數時間湖邊ヲ行キシニ湖面多クハ蘆荻萍草生シテ
綠席ヲ布クカ如シ其湖邊ヲ離レテ谷中ニ入り之ヨ
リ楊林ニ至リ宿ス
三十日 此日楊林ニ留ル此地ハ丘陵ノ南面ニ位シ
照通府ヲ經來ル叙州道ノ納谿道ニ會合スル地ニシ
テ他ノ地方ト交易ス賊亂ノ始ヨリ官兵此地ニ駐劄
セシヲ以テ賊之ヲ畧取セントシテ之ヲ圍ミシト雖
凡他地ニ移ラサルヲ得サルコトアルヲ以テ圍ヲ撤
シ其占領セシ西方ヲ燒キテ退ケリト其南方ハ平野

ニシテ全ク耕地ト爲リ人口稠密ニシテ人民中工業
ニ就ク者アリ此地ニ製スル膠ハ甚タ良品ニシテ其
名雲南及貴州ノ各省中ニ聞ユ
此地ニ至リ復タ車ヲ用ウルヲ見ル嘗テ霑益州ニ於
テ見シ者ノ如ク粗製ニシテ平野中諸方ニ運轉ス叛
賊未タ此地ノ道路ヲ損壞セサル前ハ其車ヲ以テ阪
路ヲ上下シ雲南府ニ物ヲ搬輸セシト云フ
馬夫等ハ約定ノ行程ニ滿テントスルカ故ニ余輩ヲ
遇スル慇懃ニシテ詔諛至ラサルナク以テ賞金ヲ貪
ルヲ謀ルヲ謀レリ
三十一日 楊林ヲ發シ阪路ヲ上リテ高原ニ至リ其
原綠ノ路ヲ通過スルニ路傍近隣ノ地或ハ耕種スル

處アリ或ハ松樹密生シテ林ヲ成ス處アリ雲南府ノ
商賈多クハ此ニ來テ木材ヲ購求ス或ハ壞屋數戸ア
リテ荆棘其間ニ生スル處アリ是レ滄埠村ノ在リシ
地ナリ路ノ左右ヲ眄視スレハ木匠垸工アリテ新ニ
家屋ヲ造ラントス其近傍ニ廢寺二院在リ家蓋ナク
シテ佛像其中ニ坐シ雨露ヲ蒙リテ苔紋其身ニ生シ
肢體損スル處アリ此寺ハ其遺址ニ就テ考フルニ蓋
シ大寺ナリシナラン行クニ從ヒ商業愈々盛ントナ
リ路中諸種ノ商貨ヲ運搬シテ楊林ノ方ニ至ル者甚
多シ余此日雲南府ニ達シテ行李ヲ解カント欲シ馬
夫等ヲシテ先行セシメ昨夜板橋ニ停宿シテ今日早
ク雲南府ニ至ラシメシヲ以テ余モ亦板橋ニ至ル前

ヨリ疾歩セリ

大坂橋ニ至ルニ其地大ニ荒廢シ今ハ唯路ノ兩傍ニ
數多ノ馬店此路ト宜良縣路ヲ往復スル牛馬ヲ舍ラシムルノ用ニ設クアルノミ蓋シ賊
亂ノ際此近傍ニ軍隊駐劄シテ屢々交戦セシヲ以テ
ナリ此地ノ人民ハ專ラ商ヲ業トシ耕種ヲ爲ス者ハ
唯近隣山中ノ夷人ノミ大坂橋ヲ出テヨリ石路ヲ取
リ丘陵ヲ經テ西方ニ行ケハ樹林ノ間ニ廢屋廟祠ア
ルヲ見ル其廟祠ハ近ク修補スルカ如ク奇異ノ圖ヲ
畫キテ飾トシ信神ノ旅客ハ之ニ供奠ヲ爲シテ旅中
保護ノ恩ヲ謝ス其丘上ヨリ眺望スレハ昆明縣平野
ノ東緣ニ在ル山ヨリ平野ニ至リ景色美ナリ遙カニ
昆明州雲南チ湖ノ南端ニ接ス湖滇池或昆明ヲ望ノハ

碧水洋ヤトシテ數多ノ舟船席帆ヲ張テ其内ヲ駛走
 シ湖西ハ高山相連リテ峯頭皆圓シ南方ニ至ルニ從
 ヒ其峯漸次ニ低ク曠野板橋ト湖ノ間ニ連亘シテ北
 ハ遠ク山ニ接シ南ハ呈貢縣及晋寧州ニ界ス其袤大
 約九十里アリト云フ之ヨリ阪路ヲ下ルニ狂風塵ヲ
 揚ケテ眼ヲ開ク能ハス行歩甚々難シ阪路ヲ下リテ
 平地ニ出テ過クル處田園普ク開ケ村民皆亂後荒廢
 セル地ヲ故ニ復セントシテ其業ニ勵ミ或ハ鋏ヲ以
 テ之ヲ鋤スル者アリ或ハ牛ヲ驅使シテ之ヲ犁スル
 者アルヲ見ル道ハ廣シト雖モ車馬ノ往來多クシテ
 互ニ肩摩シテ過キ時ニ道ヲ遮キルコトアリ南方ノ
 馬夫ハ身ニ短衣ヲ着テ之ニ銀色扣紐ヲ飾リ足ニ草

履ヲ穿テ脛ニ綿布ヲ纏ヒ顔ハ日光ニ曝露シテ焦黑
 ト爲リ頸ニ白帶ヲ繞纏シテ黑白分明人ヲシテ一驚
 セシム此ノ如ク其服裝ノ怪異ナルニ由リ問スシテ
 南方ノ馬夫タルコトヲ知ル
 凡ソ旅行久シキニ亘レハ苦樂共ニ意外ニ出ルコト
 アルモノトス余羈客タルコト既ニ久シクシテ善ク
 其情況ヲ諳セリ故ニ苦樂共ニ喜憂甚シキニ至ラス
 然リト雖モ雲南府ニ近ツク處ニ至リ始メテ雲南府
 城壁ヲ遙望スル時ニ當テハ余輩ノ歡嬉噓フルニ物
 ナク身心踊躍シ海人萬里ノ波濤ヲ航シテ其到ラン
 トスル港ニ入ルカ如ク長途ノ勞ヲ休メ數日停留シ
 テ心神ヲ慰サメントシ此日雲南府ニ達セント欲ス

レ未タ達セスシテ日已ニ没ス故ニ夜ヲ冒シテ行
キ二月一日ニ及ンテ雲南府ニ抵レリ此日ハ即チ清
曆同治十年十一月五日ナリ啓行ノ日ヨリ日數ヲ計
レハ三月ト七日ノ久シキヲ過ク入必氏ハ永寧縣ニ
事アリテ留リ余輩ニ後ル、コト二日ニシテ之ヲ發
セリ故ニ雲南府ノ到着モ後ル、コト二日ナリ
雲南府ハ歐州人ノ入ルコト希ナリト雖モ余輩ノ此
地ニ入ルヤ其地ノ人民余輩ニ目ヲ注クコト却テ常
ニ外國人ニ接スル海岸人民ニ於ケルヨリ少ナシ是
レ雲南人ハ東京人西藏人緬甸人ノ如キ面貌風俗衣
服ノ清人ト異ナル人民ト交際スルヨリ異俗ノ人ヲ
忌避スルノ心薄キニ因ルノミナラス余四川ニ至ル

時ヨリ清衣ヲ裝シ且容易ニ清語ヲ話スルヲ以テ自
ラ余輩ヲ認メテ歐州人トセサルニ因テ然ルナリ雖
然雲南人ハ固ヨリ清國ノ習俗タル異態ヲ恠視スル
ノ心ヲ懷クカ故ニ歐州人其國衣ヲ裝シ高帽ヲ冠リ
手ニ杖ヲ執テ行歩スルモハ必ス數人群ヲ爲シテ其
後ヲ追攝シ來ル余カ如キ清服ヲ假裝シテ往來スル
者ニ在テモ亦タ時トシテハ此ノ如ク追攝セラル、
コトアリ
是時雲南府及近地各處ニ兵士ノ駐留シテ彼此ニ相
往來スルヨリ府中ノ騷擾常ニ異ナリ市街ヲ往來ス
ル兵士ヲ視ルニ服裝怪異鎧冑ヲ被リ其腰帶ニ兩劍
ヲ佩帶シ色彩綿布ヲ脛ニ纏フテ脛衣トシ足ニ藁履

ヲ穿ナ或ハ鎗或ハ三又鎗ヲ携ヘ其面色ハ青銅ノ如ク其衣服ノ色ト相反シ以テ兵士ニ勇壯ノ容添フ其中或ハ茶店吸烟舗ニ休憩シテ隊長使役ノ命ヲ俟ツカ如キ者アリ或ハ各營ニ奔走シ衙門ニ赴キテ書簡ヲ傳達スル者アリ又異服ヲ着シテ先驅シ群簇ノ中ニ於テ不絶道ヲ開キ彈藥或ハ他物ヲ載スル車ヲ通セシムル者アリ

府民ハ數年來賊亂ノ爲メニ其業ノ大ニ衰フルヲ見日夜之ヲ憂フルカ故ニ一回勝報ヲ聞ク時ハ府民舉テ歡喜ス若シ却テ敗北ノ信ヲ聽クキハ其失望憂苦ノ狀見ルニ忍ヒス是時尙ホ未タ府中ノ亂鎮ルノ時ニ至ラス賊旣ニ府外ニ逐ハルト雖モ其府ヲ距ル一

日半程ニ出サルヲ以テ府中ノ民賊魁杜文秀復ヒ其散兵ヲ集メテ永ク亂ヲ作サンコトヲ憂慮セリ府中捷敗報ニ就テ騷擾スル此ノ如クナルヲ以テ遂ニ他ノ諸邑ニ波及シテ共ニ騷擾セリ是時ニ當リ百方人心ヲ惑亂スルノ說ヲ防クト雖モ激江ニ出ル府隊及其兵士賊ヲ討平スルコトニ力ヲ竭スニ寸功ナキヲ以テ世ヲ憂フルノ輩ハ却テ不幸ノ言ヲ吐キ諸說紛擾タリ

府署ニ於テハ府民ヲ安スルカ爲メニ虛報ヲ作爲シ不日ニ賊ヲ討平スルコトヲ其民ニ告知セシト雖モ其戰場府ヲ距ルコト近キヲ以テ其戰報細大トナク直チニ府中ニ達シ加之清人ハ事ヲ虛張スルノ風習

アルヲ以テ其戰場ニ起ル事ハ瑣事モ之ヲ増飾シテ
傳フルヨリ府署ノ配慮悉ク畫餅トナレリ此ノ如ク
不穩ノ形勢ナリト雖モ久シク絶ユル商業ハ叛賊去
テ後各地ト交通スルヨリ舊ニ復スルノ勢アリ亂ノ
未タ起ラサル前過半商賈ヲ居住セシ郭外市街ノ家
屋ハ賊ノ爲メニ破壊セラレシト雖モ今ハ其商賈之
ヲ再築セントセリ

平野ノ南東ニ在ル各村ハ全ク家屋ヲ再築シテ之ヲ
望ムニ白屋ノ連列スルヲ見ル其新築ノ家屋樑上ニ
赤紙帶ヲ掲ケ出シ其帶中ニ上樑ノ式ヲ畢ルト記セ
リ蓋シ聞ク清人ハ家屋ヲ建築スル時ニ當リ其歷中
ノ良日ヲ撰ヒ大匠ニ酒饌ヲ出シ上樑ノ式ヲ行フテ

後屋背ニ樑ヲ置クヲ其習例トスレハナリ

是時府署ニ於テハ皆軍事ニ鞅掌シテ他事ヲ顧ミル
ニ暇アラズ是ヲ以テ未タ毫モ蹂躪ノ跡ヲ修復スル
コトニ着手セス

東方ハ南門ヨリ湖ニ至ル間ノ平野蹂躪セラレテ其
土地恰モ震災ニ罹リシ時ノ如ク無數ノ罅裂ヲ生シ
府城近傍ノ道路ハ其幅廣シト雖モ或ハ崩潰シ或ハ
土障アリテ殆ント通過シ難ク姑ク其土障中ニ孔ヲ
穿チ或ハ塹ヲ埋メテ人馬ノ道トス激江道ノ如キハ
之ニ兵ヲ出セシ時ヨリ屢々人馬ノ往來スル道トナ
リシト雖モ之ヲ修理セサルヲ以テ農人等重車宣威
州ニ於テ見シ處ノ者ト製ヲ同クスヲ挽テ之ヲ過ク

ル能ハス故ニ自ラ費ヲ出シ之ヲ修理セリト云フ

附錄

雲南地方疫說

此疫ハ雲南ニ流行スル一種ノ瘍疫ニシテ人之ニ罹
リ命ヲ殞ス者甚タ多ク時ニ亦老樾及貴州疆界ノ地
ニ傳播スルコトアリ雲南人之ヲ名ケテ庠子ト云フ
此病ハ始メ緬甸ヨリ雲南ニ來リシカ如シ管事ノ語
ル所ニ從ヘハ縮甸ニ通商スル者其地ニ於テ之ニ感
染シ雲南ニ歸リテ後其病他人ニ傳染シテ諸方ニ傳
播シ爾後毎年期ヲ定メテ諸地ニ流行スト其病ノ始
メテ雲南ニ來リシ年ハ詳明ナラスシテ各人其說ヲ
異ニス或ハ賊亂ノ超ル時始メテ雲南ノ中央及東方

ノ各地ニ流行セシト云フ者アリ此說ニ同スル者最モ多シ或ハ賊
亂前始メテ雲南西方ノ地ニ來リ大理府近隣ニ流行
セリト云フ者アリ然レモ此說ニ同スル者極メテ尠
シ顧フニ此時病勢弱クシテ唯西方地ノミニ流行シ
他ノ諸地ニ蔓延セサリシニ由ルナル可シ賊亂起テ
ヨリ以來年ヲ逐テ病勢愈々劇烈ト爲リ雲南中諸地
ヲ犯シ今日ニ至テモ尙ホ依然トシテ其勢ヲ減セス
毎年此病ノ發スルヤ始メハ地中或汚水溝中ニ住ム
小獸如鼠ノ之ニ感シ地中或溝中ヨリ出テ、人家ニ入
リ旋轉奔走スルコト數時ニシテ後斃レ或ハ室床下
ニ死スル者アリ是時人初メ之ヲ知ラス其惡臭ヲ發
スル時ニ至テ僅カニ之ヲ知ルノミ之ニ次テ牛馬羊

豚雞家鴨ノ如キ家畜禽獸之ニ感染シテ斃ル然レモ
其禽ハ斃ル、者甚ダ少シ是ニ由テ之ヲ察スルニ此
病ハ地中ヨリ發スル瘴氣ニ由テ起ルカ如シ余雲南
ニ到リシ時土人余ニ語ルニ此病ニ由リ禽獸ノ斃ル
、コトヲ以テセリト雖モ余ハ嘗テ此土人ノ荒唐虛
誕ノ言ヲ吐クヲ聞キシヲ以テ始メ之ヲ信セス其後
此病ノ發スル時ニ方リ余親シク之ヲ見テ其言ノ信
ナルコトヲ知レリ

此ノ如ク此病禽獸ニ發シテ後日ナラスシテ人之ニ
感染ス是以テ禽獸此病ニ罹ル時ヨリ諸人之ヲ防ク
コトニ意ヲ用井或ハ家中各室ニ火ヲ燃キテ之ヲ清
潔ニシ或ハ豚肉ヲ食スルコトヲ止ム

人此病ニ感スルヤ初メ劇熱ヲ發シテ口大ニ渴シ數
時ノ後腫瘍腋下鼠蹊或項頸ニ發シテ深赤色ヲ爲シ
熱漸々ニ増加シテ其人謔語ヲ發シ人事ヲ省セス其
腫瘍逐次ニ腫脹シテ硬固ト爲リ第二日ニ及ヒテ停
止ス是時ヨリ其人精神復シテ人事ヲ省スルニ減セ
至ルト雖モ其硬腫變シテ軟腫ト爲リ熱依然トシテ
サル者ハ多クハ治セス之ニ反シテ其腫瘍膿潰スル
者ハ治ス可シ然レモ其膿潰スル時ニ至テハ其病人
大ニ衰弱シテ斃レ治ヲ得ル者甚タ希ナリ
清醫ハ此腫瘍ヲ切開シテ治ヲ施ス者アリト雖モ多
クハ施術拙ニシテ施術ノ好期ヲ誤リ之ニ由テ治ヲ
得ル者極メテ僅カナリ又諸藥ヲ用井テ効ヲ得ス病

人死ニ頻スル際ニ臨ミ麝香ヲ用ウト
余雲南ニ逗遛セシ間此病ノ流行スル數回ニシテ之
ニ罹ル者多クハ死セリ其病ノ劇ク流行スル地ニ於
テハ其人民多分斃レテ全家悉ク死滅スル者往々之
アリ故ニ人民家ヲ棄テ、山中ニ逃避スル者アリ其
流行ノ劇カラサル地ニ於テモ命ヲ損ス者百人中五
六人ニ過ク清人ハ舊來ノ惡習ヲ信守シ此疫ニ罹リ
テ死スル者ヲ埋メス之ヲ棺中ニ入レ丘陵或田圃中
ニ置テ日光ニ曝露ス是以テ流行地ノ近隣ヲ往來ス
ル人ハ死屍ヨリ發出スル惡氣ニ觸レテ此病ニ感染
シ傳播ノ勢愈々盛ント爲ル
千八百七十一年乃至千八百七十三年ノ三年間ニ於

テ余カ目撃セシ處ノ者ヲ以テスレハ此病ノ始メテ
 發スル常ニ插苗ノ時五六月ニ在テ是ヨリ病勢漸次ニ
 劇烈ト爲リ諸地ニ流行シ夏時七八九ノ三月間ニシテ雲南
ニ於テハ此時雨多シ
 ニ至リ病勢少シク減スト雖モ陸續傳播シ収獲ノ時
 ニ及ヒテ病勢復ヒ旺盛ト爲リ歲未ニ至ル迄其勢ヲ
 逞フシ人ヲ斃スコト最モ多シ
 此病ハ其流行スル線路中ニ在ル村落市街ヲ悉ク犯
 サス或ハ一村ヲ遺シ或ハ兩三村ヲ超過シテ流行シ
 數月ノ後或ハ翌年ニ至リテ其遺シタル村落市街ヲ
 犯スコトアリ又平野中諸村落ニ流行スル時ニ方リ
 不意ニ山中ニ侵入シ其土人ヲ斃スコトアリ是レ余
 カ雲南南北ノ諸地ニ於テ親シク見シ處ニシテ一奇

事ト謂フ可シ而シテ其山中ニ侵入スル時ハ插苗ノ
 後或ハ収獲ノ時ニ在リ是ニ由テ之ヲ考フルニ平野
 中ニ出テ雇役ヲ爲ス山中男女此病毒ニ感染シテ山
 中ニ歸リ其病ヲ發シテ諸人ニ傳染スルコト疑ヲ容
 ル可カラス
 此ニ載スル圖ハ千八百七十一年乃至千八百七十三
 年ニ流行セシ疫病ノ流行進路ヲ示メス者ニシテ流
 行地官吏ノ記録ト余カ見聞セシ處ノ者ニ因テ製ス

1
3
98

學南編行

